

・ 評定尺度調査の分析結果

【評定尺度調査の分析にあたって】

今回用いた評定尺度は、「あてはまる」「ややあてはまる」「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の4段階評価である。本報告書においては、データの理解のしやすさや分析のしやすさを考慮し、便宜的に4段階のカテゴリーに4～1の点数を振り、その平均値を算出することによって、データの代表値とした。ただし評定尺度の各カテゴリーに振られた「数字」を「数値」として加減乗除の演算をすることは、厳密に言えば統計処理として適切でない。3が2よりもあてはまる程度が大きいことは言えても、4と3の間と3と2の間が等距離(つまり1の間隔)だという保証はどこにもないからである。しかし4つのカテゴリーごとの相対度数(パーセント)を見て、そこから何らかの傾向を把握することは必ずしも容易ではないため、平均値を回答の傾向を推察するための目安の1つとして用いていくことにしたい。

また、ここでの平均値は何らかの単位を持つものではないので、データ同士の相対比較でしかその傾向をつかみにくいという性格を持っている。仮にある項目の平均値が、他の項目より低かったとしても、大部分の回答者がその項目に対して肯定的な評価をしていれば、その項目の評価は低いと簡単に断言できるものではないからである。つまり絶対的な評価が把握しにくいと言える。そこで、「あてはまる」もしくは「ややあてはまる」と回答した対象者の割合を同時に提示した。これによって、その評価項目に対して肯定的な評価をしている対象者がどれくらいの割合で存在するかを推測する目安となろう。

さらに回答者の属性ごとの回答者数を提示しておく。本来なら、グラフ等のデータごとに回答者数を示すべきであるが、データの構造上、全てのデータに回答者数を掲載すると非常に煩雑になるため、ここに一括して掲載することにした(次頁表2-1)。以下、本章においては、常に次頁の回答者数を念頭においてデータを見る必要がある。特に回答者数の少ない層は誤差も大きく出る可能性があるため、注意が必要である。たとえば、学部では年齢階層別の「19歳以下」、職業別の「農業等」「他大学等の学生」、大学院では年齢階層別の「20～29歳」、同じく職業別の「農業等」「他大学等の学生」である。

表 2 - 1 回答者数一覧

【学部】				【大学院】			
全体		5860		全体		949	
		(単位:人)				(単位:人)	
メディア		年齢階層		メディア		年齢階層	
テレビ科目(TV)	3,016	19歳以下	27	テレビ科目(TV)	446	19歳以下	0
ラジオ科目(R)	2,844	20～29歳	580	ラジオ科目(R)	503	20～29歳	29
職業		30～39歳	1,017	職業		30～39歳	170
公務員等	443	40～49歳	1,159	公務員等	123	40～49歳	233
教員	259	50～59歳	1,200	教員	229	50～59歳	242
会社員	1,012	60～69歳	1,265	会社員	160	60～69歳	166
個人営業・自営業	308	70歳以上	546	個人営業・自営業	61	70歳以上	97
農業等		専攻		農業等		専攻	
看護師等	540	基礎科目	1,377	看護師等	25	総合文化(文化情報科学群)	238
家事専業	662	生活と福祉	751	家事専業	49		
パート・アルバイト	663	発達と教育	795	パート・アルバイト	47	総合文化(環境システム科学群)	64
他大学等の学生	51	社会と経済	801	他大学等の学生	3		
無職	1,388	産業と技術	449	無職	137	政策経営	125
その他	360	人間の探究	1,060	その他	84	教育開発	282
		自然の理解	627			臨床心理	240

職業及び年齢には無回答があるため、職業及び年齢階層の回答者数をそれぞれ合計しても、全体の回答者数とは一致しない。

- 1 . 学部票結果の分析

- 1 - 1 . 回答者全体から見た評価

学部の回答者全体について、評価項目ごとの結果を示したものが次頁の図 2 - 1 である。

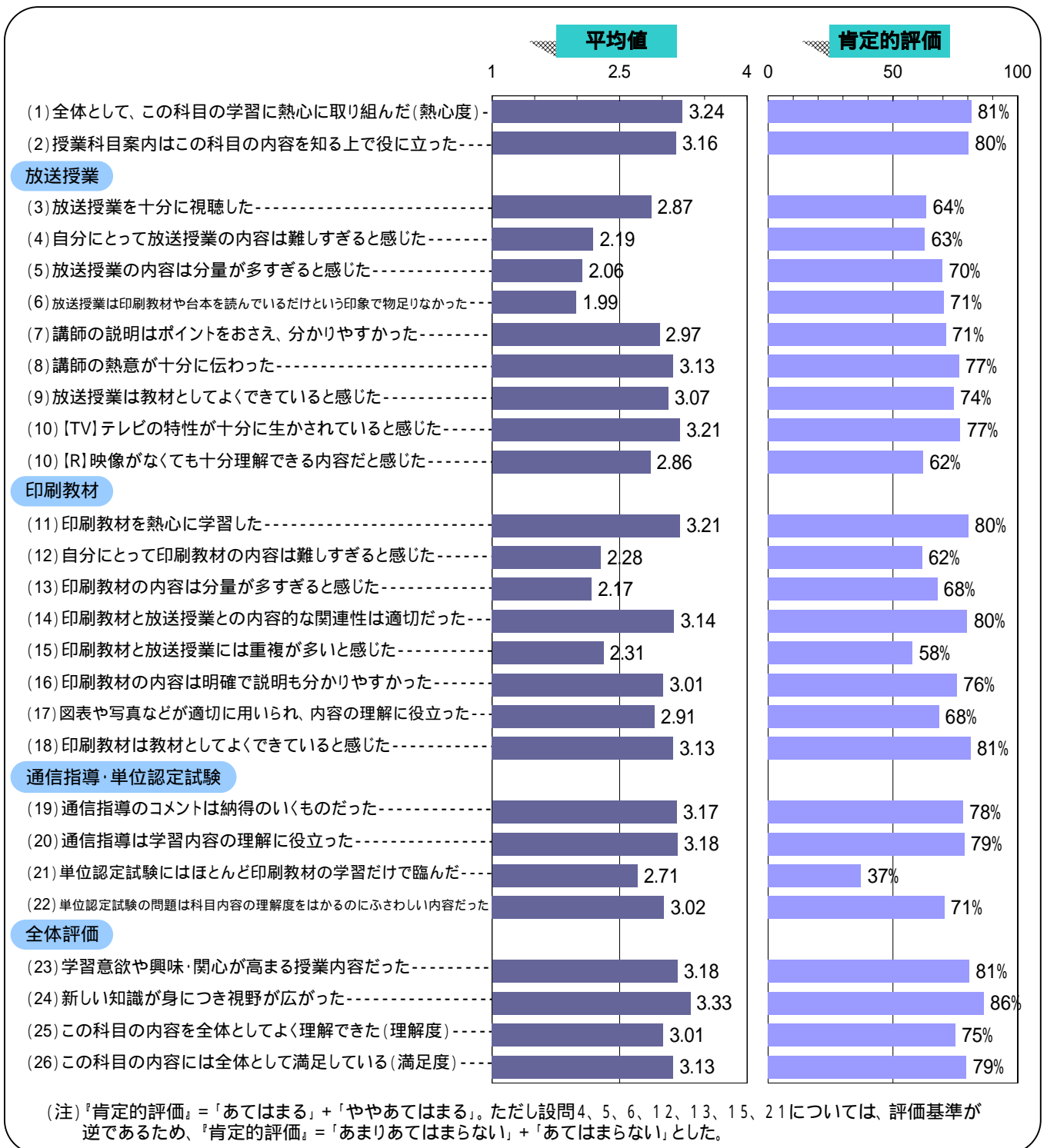
まず全体評価を見ると、対象科目の総合的な満足度を示しているであろう(26)「この科目の内容には全体として満足している(満足度)」は、平均値 3.13 と比較的高い値となっている。肯定的評価(満足とした学生の割合)は 79% と 8 割の学生が満足としているが、残り 2 割の学生は対象科目に満足しておらず、こうした不満層への対策が求められる。

(25)「この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)」も、平均値 3.01 と比較的高く、肯定的評価(よく理解できた学生の割合)は 75% となっている。科目の満足度と理解度の間には強い相関が見られるため(47 頁 表 2 - 4 参照)、満足度を高めるには、理解度の向上が重要なポイントになっている。

また、(24)「新しい知識が身につく視野が広がった」や、(23)「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」も高い評価となっており、いずれも肯定的評価は80%以上となっている。新しい知識の習得や興味・関心という点では、授業内容の適切さが評価されよう。

(1)「全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)」は、平均値3.24と非常に高く、肯定的評価(熱心に取り組んだという学生)が81%となっている。熱心

図2-1 【学部】回答者全体の評価



度は、満足度や理解度、さらに新しい知識の習得度合いや興味・関心度などの授業内容との相関が見られ、単に学生の学習意欲を表わすだけでなく、授業評価の重要なバロメーターとなっている。

次に放送授業に関しては、放送授業の総合評価とも言える(9)「教材としてよくできていると感じた」は、平均値 3.07、肯定的評価 74%と比較的高い評価となっている。

総合評価以外の項目では、(7)「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」、(8)「講師の熱意が十分に伝わった」、(10)「テレビの特性が十分に生かされていると感じた」の評価値が比較的高く、講師の授業方法やテレビ特性の活用については比較的高い評価を得ている。この3項目は放送授業の総合評価である(9)「教材としてよくできていると感じた」と相関があるため(45頁 表2-2参照)、これらの評価が比較的高いことが、放送授業の総合評価の高さに繋がっていると考えられる。

ただし、(6)「放送授業は印刷教材や台本を読んでいるだけという印象で物足りなかった」は、「そう思わない」という肯定的評価が71%となっているが、これは100%を目指す評価項目あり、改善が求められる。ラジオ科目の(10)「映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」は、平均値 2.86 とやや評価値が低く、肯定的評価も62%にすぎない。ラジオの場合、映像を伴わないという制約はあるが、それを補う授業方法や印刷教材、科目の選定等について、さらなる工夫が必要と言える。

一方、放送授業の内容については(4)「難しすぎると感じた」は「そう思わない」という肯定的評価が63%と低く、(5)「分量が多すぎると感じた」は「そう思わない」という肯定的評価が70%となっている。残りの30%前後の学生が難しさや分量の多さを感じているが、放送授業の総合評価とも言える(9)「教材としてよくできていると感じた」との相関はほとんどなく、放送授業の総合評価に影響を与えていない。

(3)「放送授業を十分に視聴した」は、平均値 2.87、肯定的評価 64%とやや低くなっている。(11)「印刷教材を熱心に学習した」と比べるとかなり低い数字となっており、放送授業よりも印刷教材に学習の重点が置かれている。放送内容が印刷教材の単なる繰り返しになっていないか、さらに放送内容に起因する原因がないかにも注意する必要がある(この点は通常の通信制大学とは異なる放送大学の意義が問われる部分でもある)。

印刷教材については、総合評価とも言える(18)「教材としてよくできていると感じた」は平均値 3.13、肯定的評価 81%と高い評価値を得ている。印刷教材の内容については、(14)「印刷教材と放送授業との内容的な関連性は適切だった」、(16)「内容は明確で説明も分かりやすかった」等の点で、高い評価値を得ており、理解のしやすさという点では一定の評価を得ていると言える。これら2つに加え、(17)「図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った」を加えた授業の理解のしやすさは、印刷教材の総合評価とも言える(18)「教材としてよくできていると感じた」との相関が高く(46頁 表

2 - 3 参照) 印刷教材の総合評価を高める上でのポイントになっている。

一方、印刷教材の内容が(12)「難しすぎると感じた」は「そう思わない」という肯定的評価が62%、(13)「分量が多すぎると感じた」は「そう思わない」という肯定的評価が68%と、放送授業と同じく30%強の学生が難しさや分量の多さを感じている。

(15)「印刷教材と放送授業には重複が多いと感じた」という学生も約40%を占めており(「そう思わない」という肯定的評価は58%)、今後改善すべき課題である。

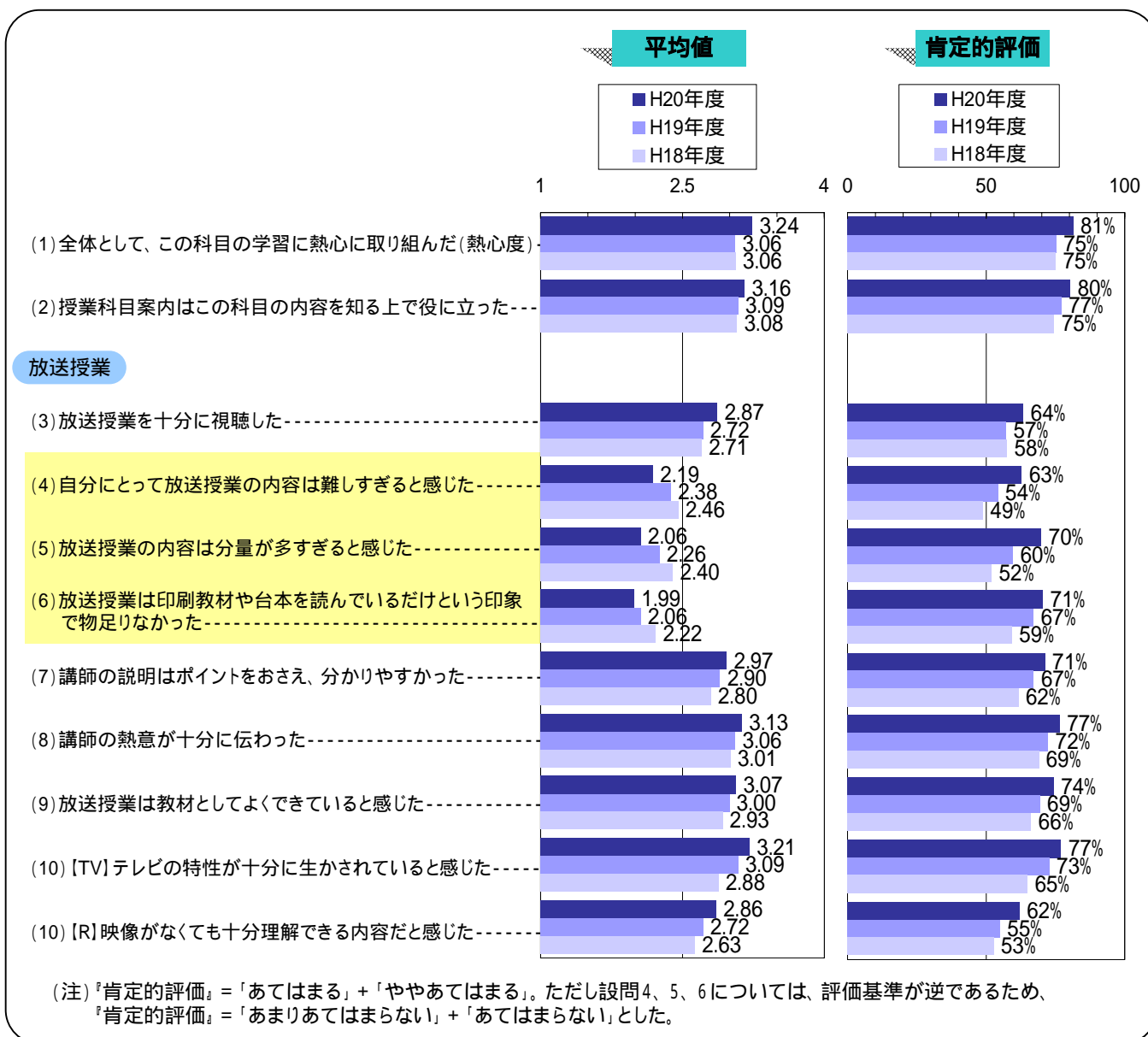
通信指導の(19)「コメントは納得のいくものだった」、(20)「学習内容の理解に役立った」については、いずれも高い評価値を得ている。単位認定試験の(22)「科目内容の理解度をはかるのにふさわしい内容だった」はまずまずの評価と言える。

ここで回答者全体の評価を、昨年度との比較で見てみる。前述したように、昨年度とは調査対象科目が異なり、厳密な意味での時系列比較にはならないため、参考程度にとどめておく必要がある。

まず(1)「全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)」は前回に比べ肯定的評価が増加しており、熱心に取り組んだ学生が増えている(図2-2)。これは学生の学習意欲が急に高まったというより、授業内容(テーマ等)や授業の理解のしやすさ、満足度といった授業の質が高まったために、熱心に学習する学生が増えたと判断する方が適切であろう。放送授業に関する(3)「放送授業を十分に視聴した」も同様のことが言えよう。

それ以外の放送授業に関する項目も、年々評価が高まっている。放送授業の内容、方法のいずれにおいても改善の効果が出ていると言える。特に(5)「放送授業の内容は分量が多すぎると感じた」は、評価値が最も大きく向上している。

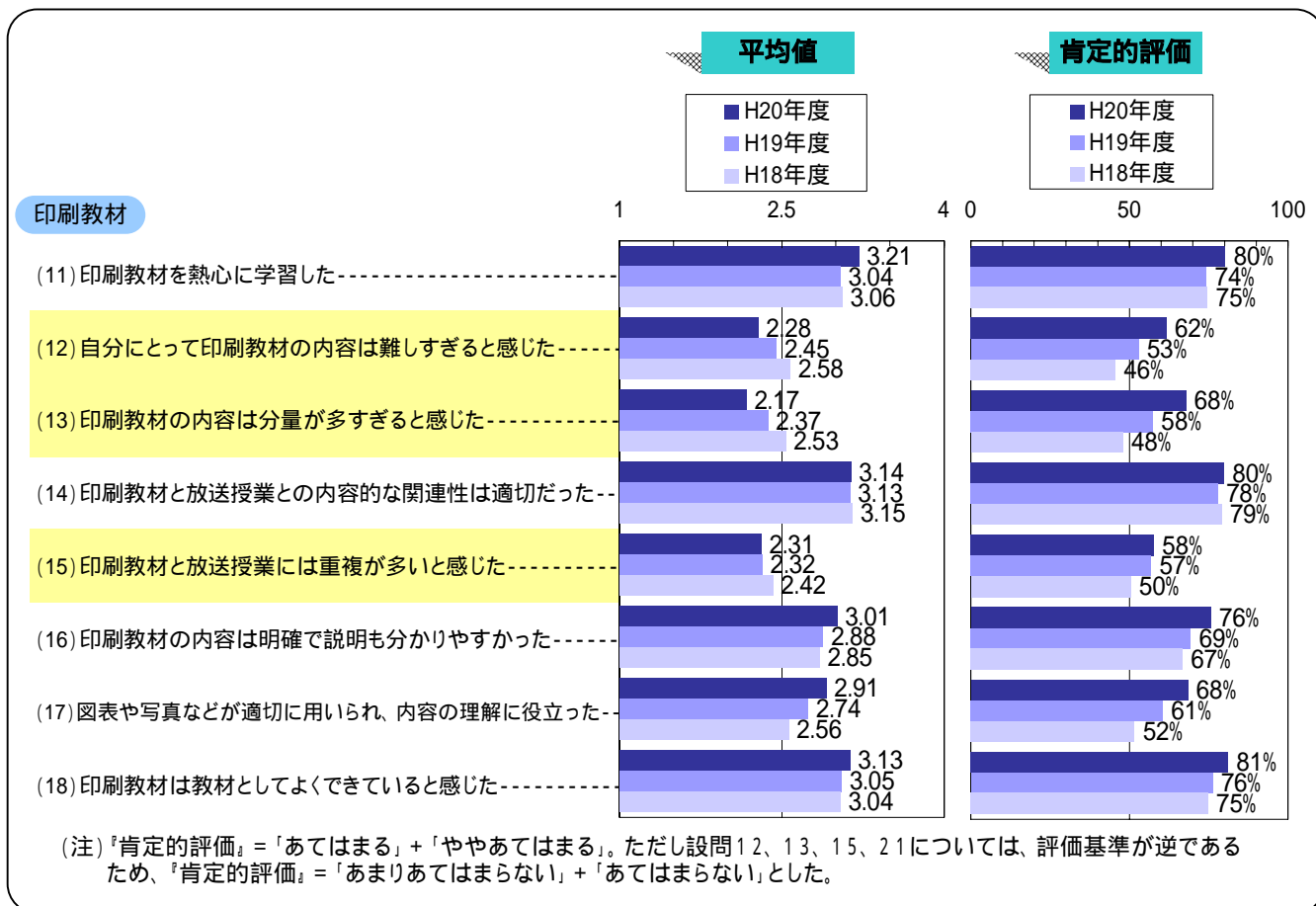
図2-2 【学部】回答者全体の評価(時系列)



印刷教材についても(図2-3)年々評価が高まっている項目が多い。特に(12)「内容が難しく感じた」、(13)「分量が多すぎると感じた」、(17)「図表や写真等が適切に用いられ、内容の理解に役立った」は、評価値が年々大きく向上している。

一方、(14)「印刷教材と放送授業との内容的な関連性は適切だった」は、もともと評価が高いためか、ほとんど変化が見られず高止まりしている感がある。

図2-3 【学部】回答者全体の評価(時系列)

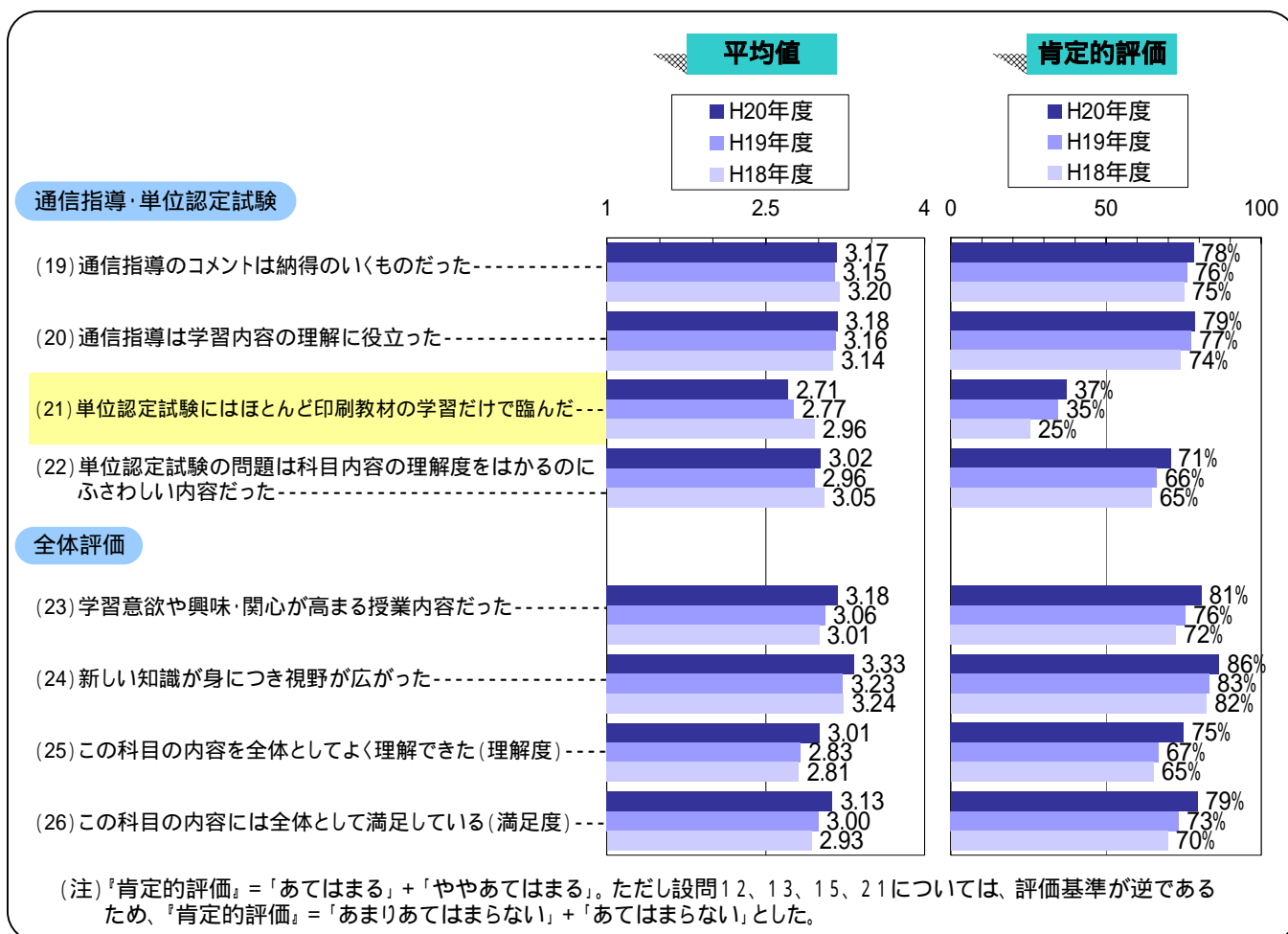


通信指導（図2 - 4）については、肯定的評価はやや多くなっているものの、平均値はあまり伸びていない。

全体評価は、前回あるいは前々回以降、いずれの項目も評価が高くなっている。（25）「この科目の内容を全体としてよく理解できた（理解度）」、（26）「この科目の内容には全体として満足している（満足度）」とも前々回よりも肯定的評価が10%前後増えている。

全般的に見れば、今回対象とした科目は、前回あるいは前々回に対象とした科目よりも評価が高くなっていると言えよう。

図2 - 4 【学部】回答者全体の評価（時系列）



(1) 放送授業に関する評価結果

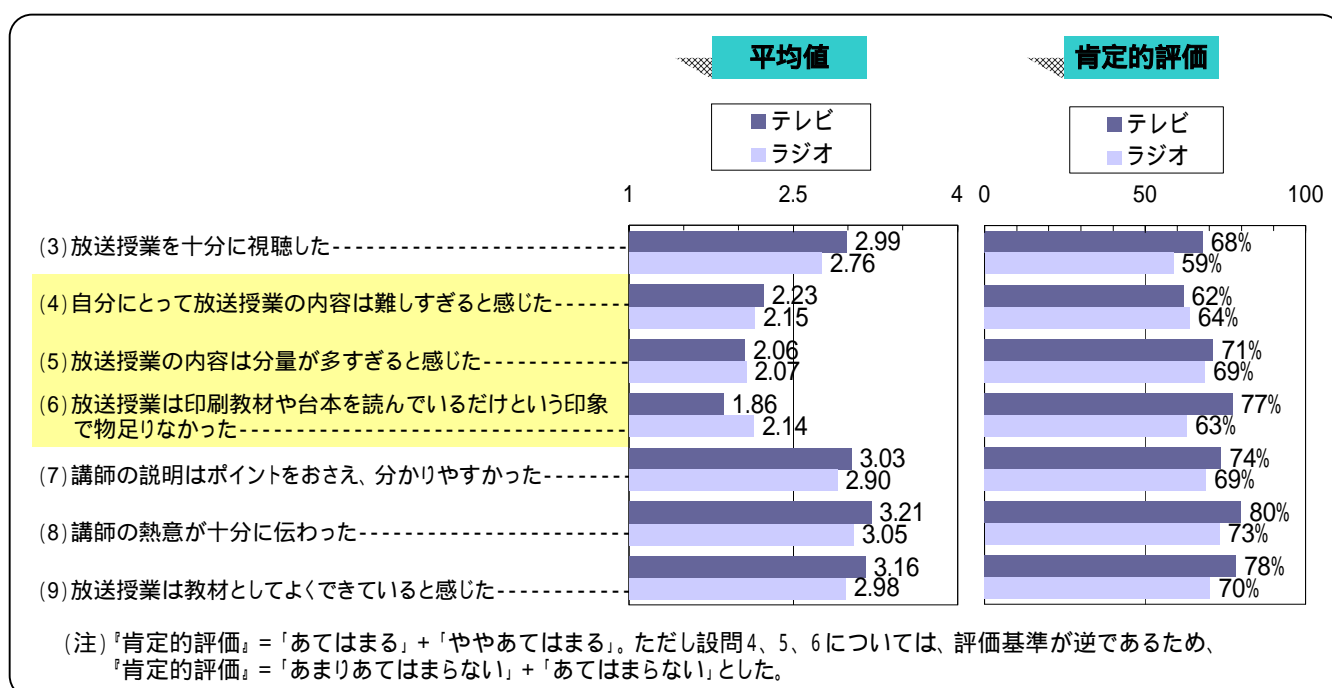
ここからは、各評価項目に関して、メディア(テレビ科目またはラジオ科目)、所属専攻、回答者の年齢構成・職業等の属性別に見ていくことにする。

まず、放送授業に関する評価結果をメディア別に見ると(図2-5)(3)「放送授業を十分に視聴した」という学生は、テレビ科目が68%(肯定的評価)に対し、ラジオ科目は59%とやや少なくなっている。

放送授業の内容についての(4)「難しすぎると感じた」と(5)「分量が多すぎると感じた」では、テレビ科目とラジオ科目の差はあまり見られないが、講師の授業方法についての(6)「放送授業は印刷教材や台本を読んでいるだけという印象で物足りなかった」、(7)「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」、(8)「講師の熱意が十分に伝わった」に関しては、いずれもテレビ科目の評価がラジオ科目より高くなっている。

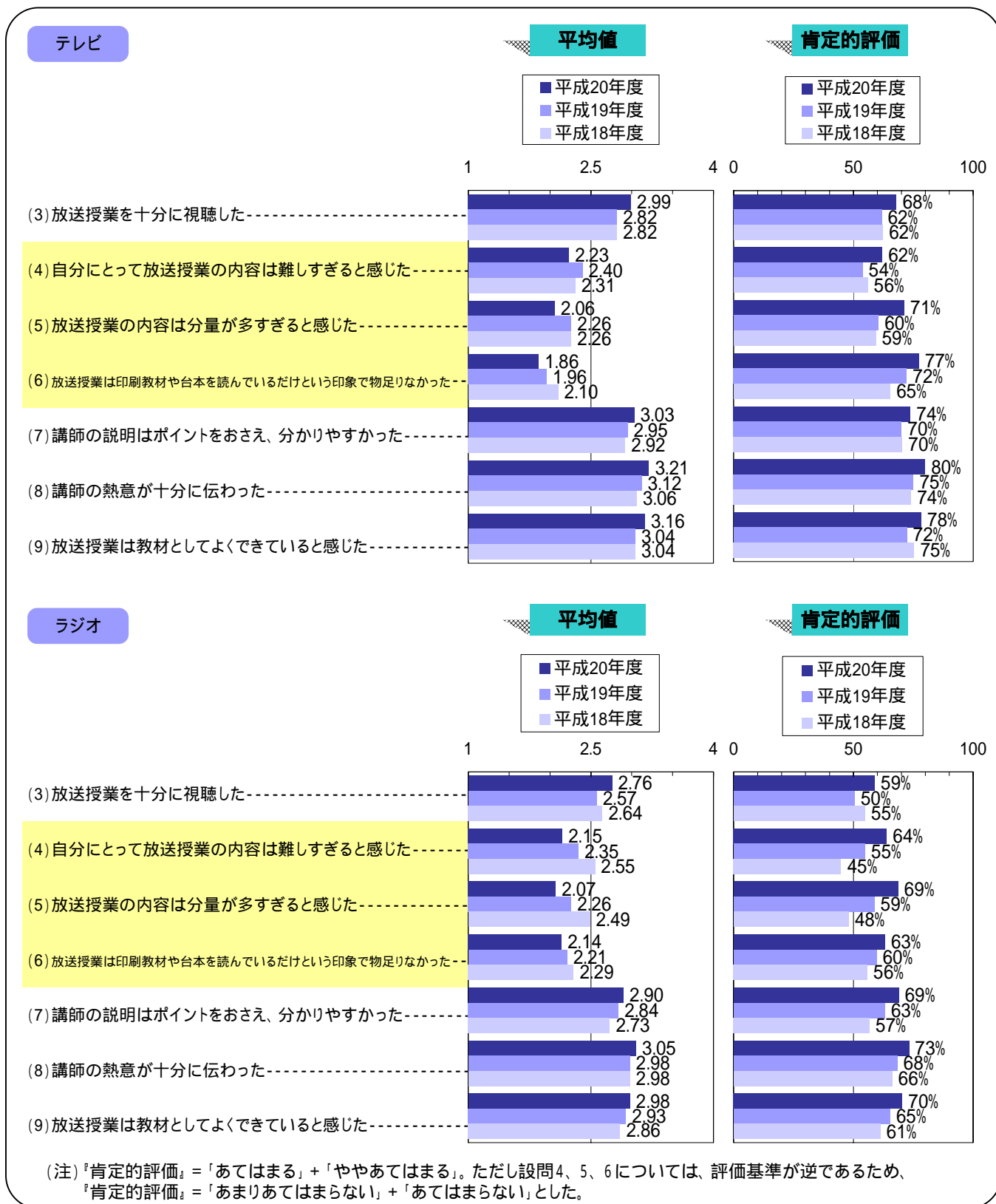
さらに放送授業の総合評価と言える(9)「放送授業は教材としてよくできていると感じた」もテレビ科目の方が高い評価値となっている。ラジオ科目の場合、映像がないという制約はあるが、講師の授業方法の改善が求められよう。特に(6)「放送授業は印刷教材や台本を読んでいるだけという印象で物足りなかった」はテレビ科目との評価差が大きく、評価も低くなっているため、注力すべき改善点と言える。

図2-5 【学部】メディア別の「放送授業」評価



さらにメディア別の時系列評価を見ていく(図2-6)。まずテレビ科目では前回および前々回に比べいずれの項目も評価が上がっている。特に(6)「放送授業は印刷教材や台本を読んでいるだけという印象で物足りなかった」は年々評価が上昇し、今回は肯定的評価が77%まで伸びている。

図2-6 【学部】メディア別の「放送授業」評価(時系列)

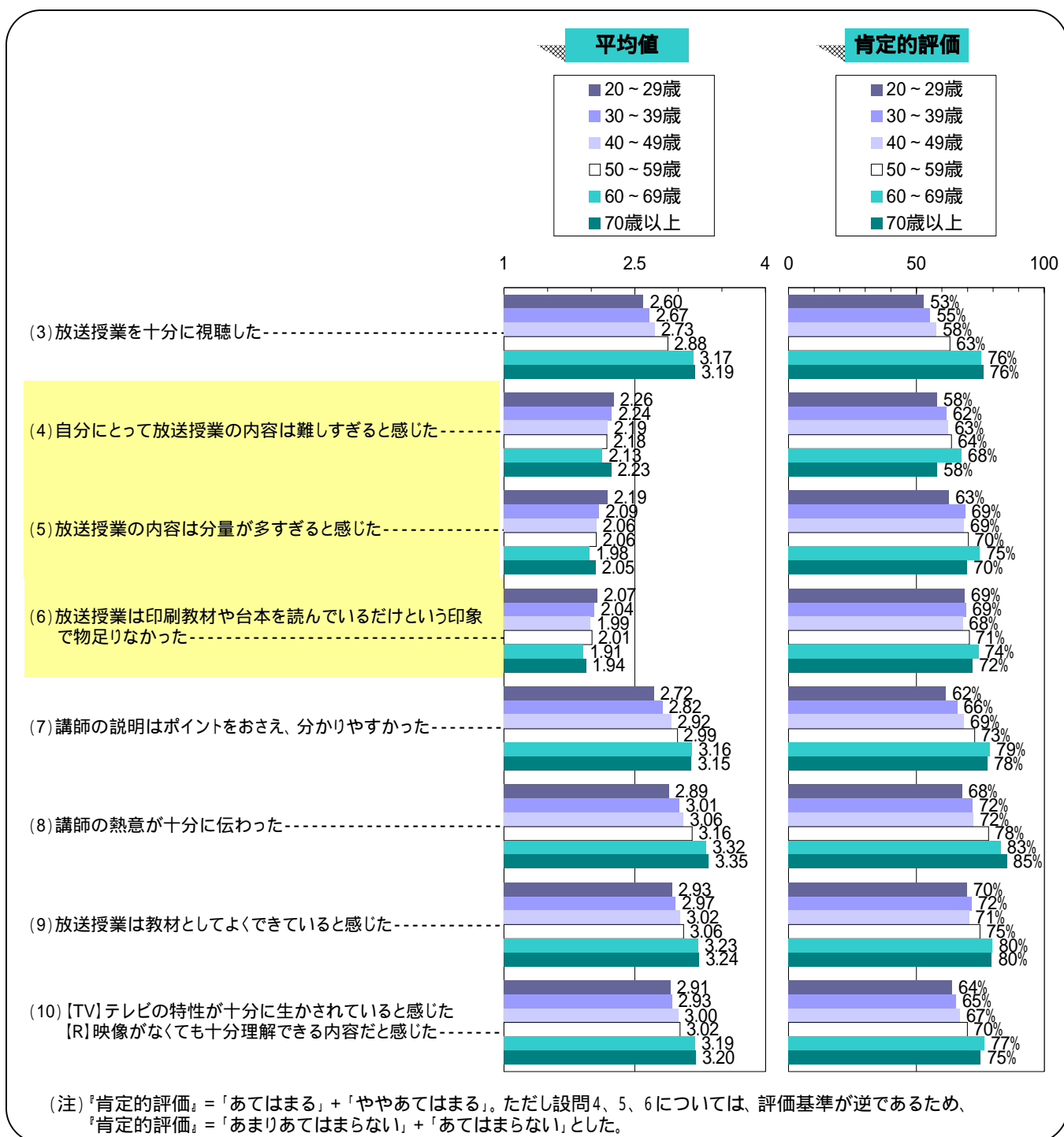


ラジオ科目では、(3)「放送授業を十分に視聴した」という学生が前回減少したが、今回は逆に増加している。またそれ以外の項目はいずれも年々評価が上がっている。特に(4)「放送授業の内容は難しすぎると感じた」、(5)「放送授業の内容は分量が多すぎると感じた」等の授業内容の評価、および(7)「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」という点は、肯定的評価が年々大きく上がっており、改善が見られる。

次に放送授業に関して、学部生の年齢階層別に見ていくと（図2-7）（3）「放送授業を十分に視聴した」は、年齢の高い層ほど多くなっている。特に定年退職者が多い60歳以上で多くなっている。これは主に時間的な余裕の有無が影響しているものと思われるが、さらに高齢者層ほど学習意欲が高いことも原因として考えられる。

（4）「放送授業の内容は難しすぎると感じた」、（5）「放送授業の内容は分量が多すぎると感じた」等の授業内容の評価、および（6）「放送授業は印刷教材や台本を読んでいるだけという印象で物足りなかった」は、あまり年齢階層の差がみられないが、それ以外の授業方法や総合評価に関しては、年齢の高い層ほど評価値が高くなっている。

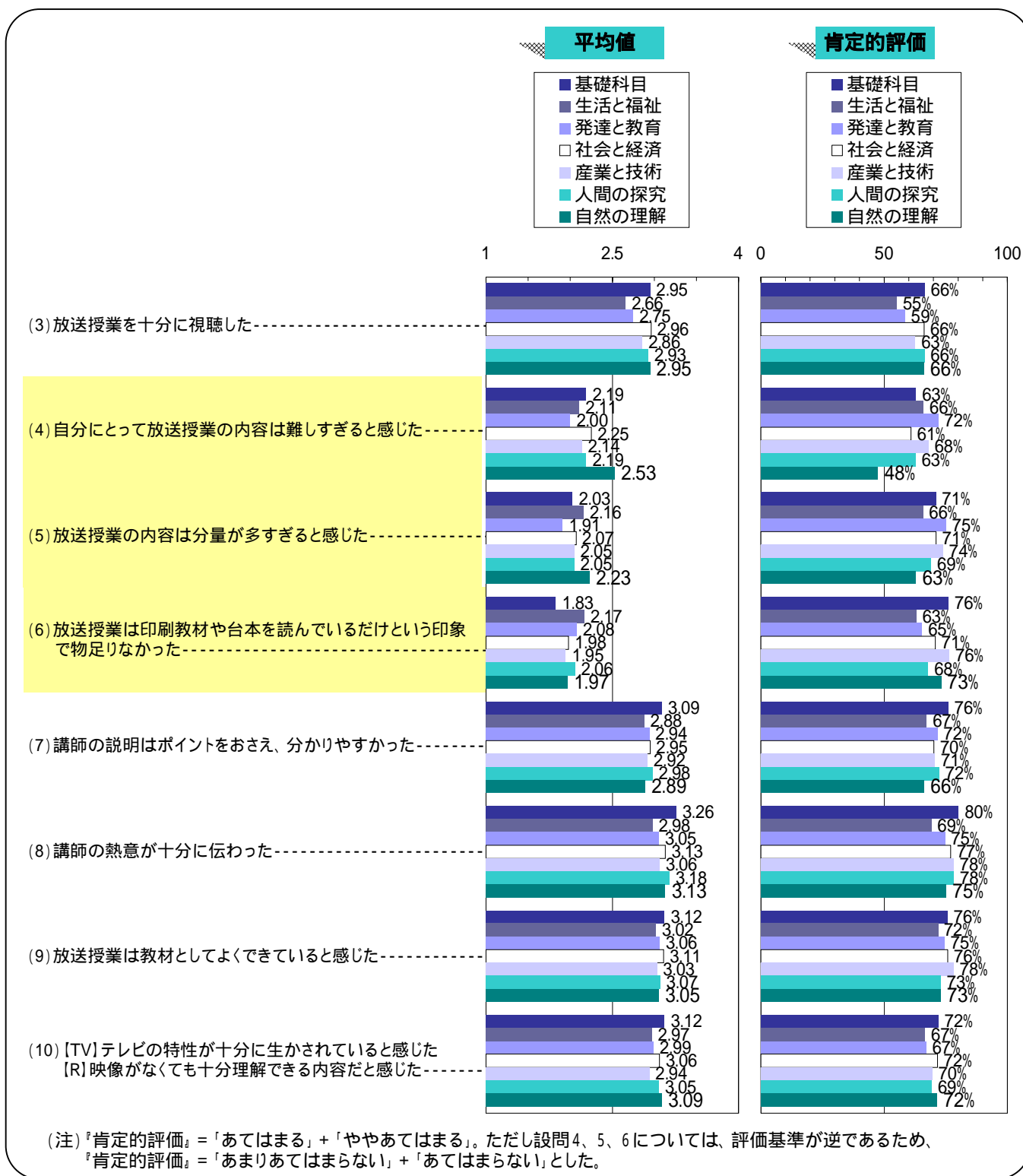
図2-7 【学部】年齢階層別の「放送授業」評価



科目の所属専攻別に見ると（図2 - 8）（3）「放送授業を十分に視聴した」という学生は、「生活と福祉」及び「発達と教育」で他の専攻より少なくなっている。

基礎科目は（4）「放送授業の内容は難しすぎると感じた」を除いて、いずれの評価項目も他の専攻に比べ高い評価となっている。

図2 - 8 【学部】科目の所属専攻別の「放送授業」評価



「生活と福祉」と「発達と教育」は、総合評価をはじめ、(6)「印刷教材や台本を読んでいるだけという印象で物足りなかった」、(7)「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」、(8)「講師の熱意が十分に伝わった」、(10)「【TV】テレビの特性が十分に生かされている / 【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」等の授業方法において、他の専攻よりやや評価が低い。ただし「発達と教育」は(4)「放送授業の内容は難しすぎると感じた」、(5)「放送授業の内容は分量が多すぎると感じた」という授業内容においては評価が高い。

逆に「自然の理解」は前回までと同様、授業内容の難易度や分量において評価が低くなっている。

「産業と技術」は基礎科目と同様、授業内容、授業方法とも比較的高い評価を得ている。

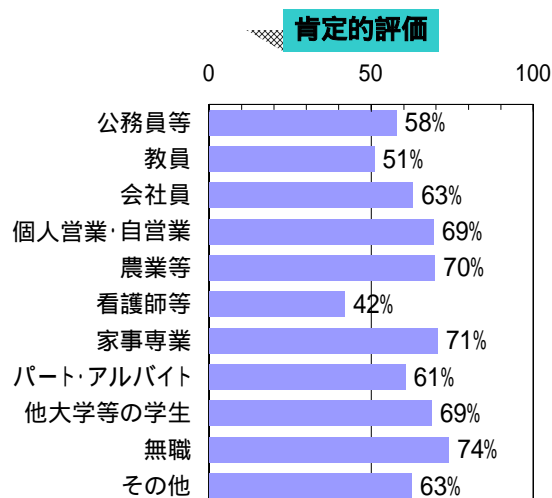
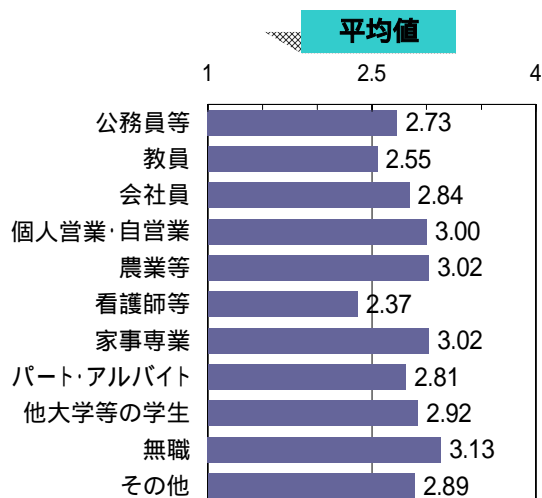
次いで、学部生の職業別に視聴の十分さ及び難易度・分量について見てみる(次頁の図2-9)。(3)「放送授業を十分に視聴した」という学生は、無職、家事専業、個人営業・自営業、他大学の学生等、比較的時間に余裕があると思われる層で多くなっている。逆に十分視聴されていないのは看護師等であり、他の職種に比べかなり低くなっている。

(4)「放送授業の内容は難しすぎると感じた」という学生は、他大学の学生で非常に多く、農業等、看護師等でもやや多い。逆に個人営業・自営業、公務員等、教員ではやや少なくなっている。

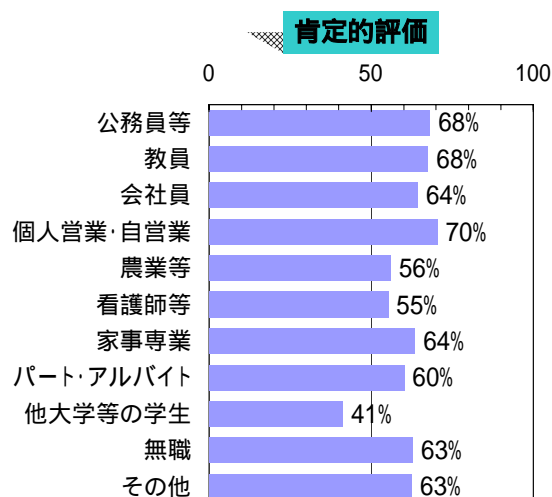
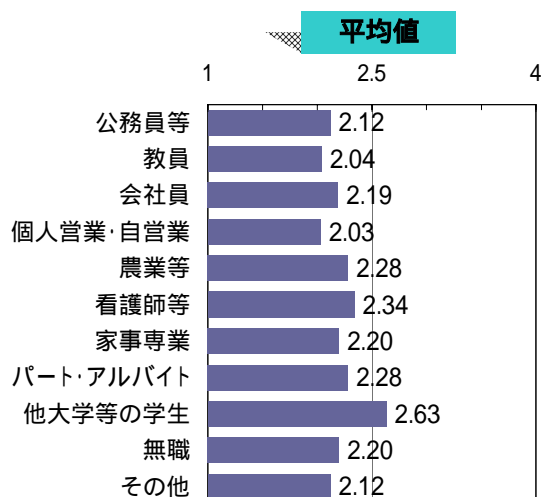
(5)「放送授業の内容は分量が多すぎると感じた」という学生も、他大学の学生は非常に多く、看護師等でやや多い。看護師等においては専攻科目が特定の科目に集中していると考えられるので、難易度や分量の評価は、専攻科目による影響も念頭におく必要がある。(なお、農業等と他大学等の学生は回答者数が少ないため参考にとどめた方がよい)

図 2 - 9 【学部】職業別の「放送授業」評価

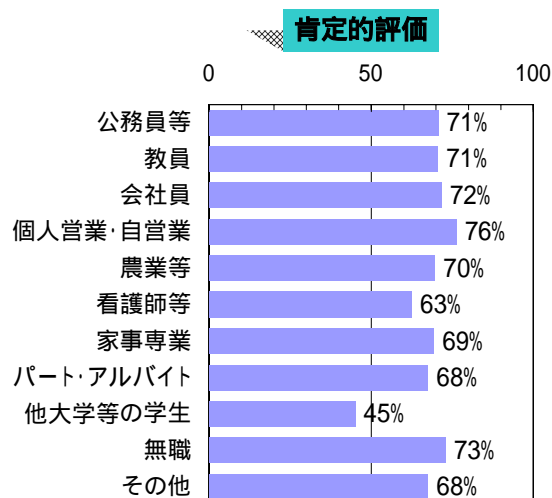
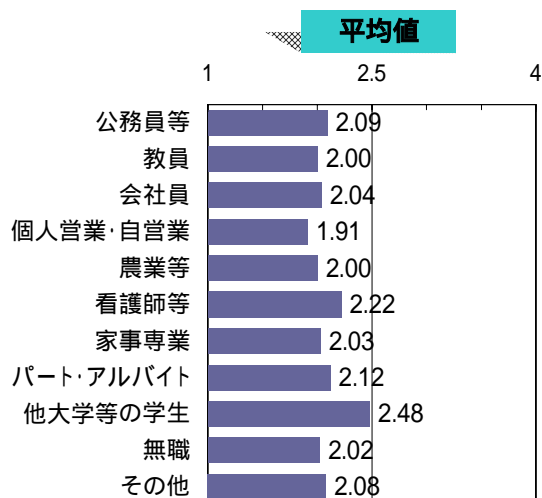
(3) 放送授業を十分に視聴した



(4) 自分にとって放送授業の内容は難しすぎると感じた



(5) 放送授業の内容は分量が多すぎると感じた



(注) 『肯定的評価』 = 「あてはまる」 + 「ややあてはまる」。ただし設問4、5については、評価基準が逆であるため、『肯定的評価』 = 「あまりあてはまらない」 + 「あてはまらない」とした。

(2) 印刷教材に関する評価結果

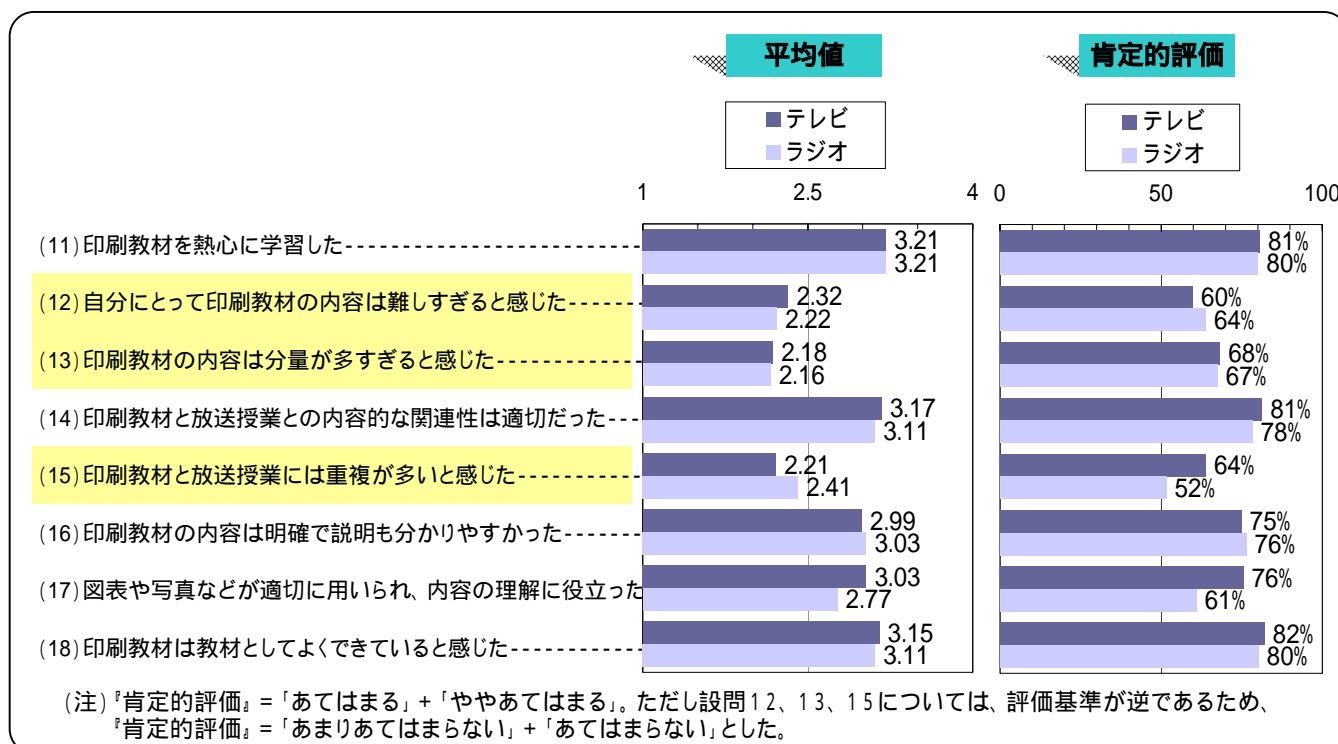
ここからは印刷教材に関する評価結果について見ていく。メディア別の印刷教材の評価が図2-10である。

印刷教材の評価では、放送授業の評価ほど、テレビ科目とラジオ科目の差は見られない。総合評価と言える(18)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」は、肯定的評価がテレビ科目82%に対し、ラジオ科目80%とあまり差はない。

ただし、(15)「印刷教材と放送授業には重複が多いと感じた」、(17)「図表や写真等が適切に用いられ、内容の理解に役立った」については、テレビ科目に比べ、ラジオ科目の評価がかなり低くなっている。放送授業において映像のないラジオ科目の場合、印刷教材において図表や写真等を適切に用い、内容の理解に役立たせるべきであり、その点の評価が低いことは、今後に向けて重要な改善ポイントと言えよう。

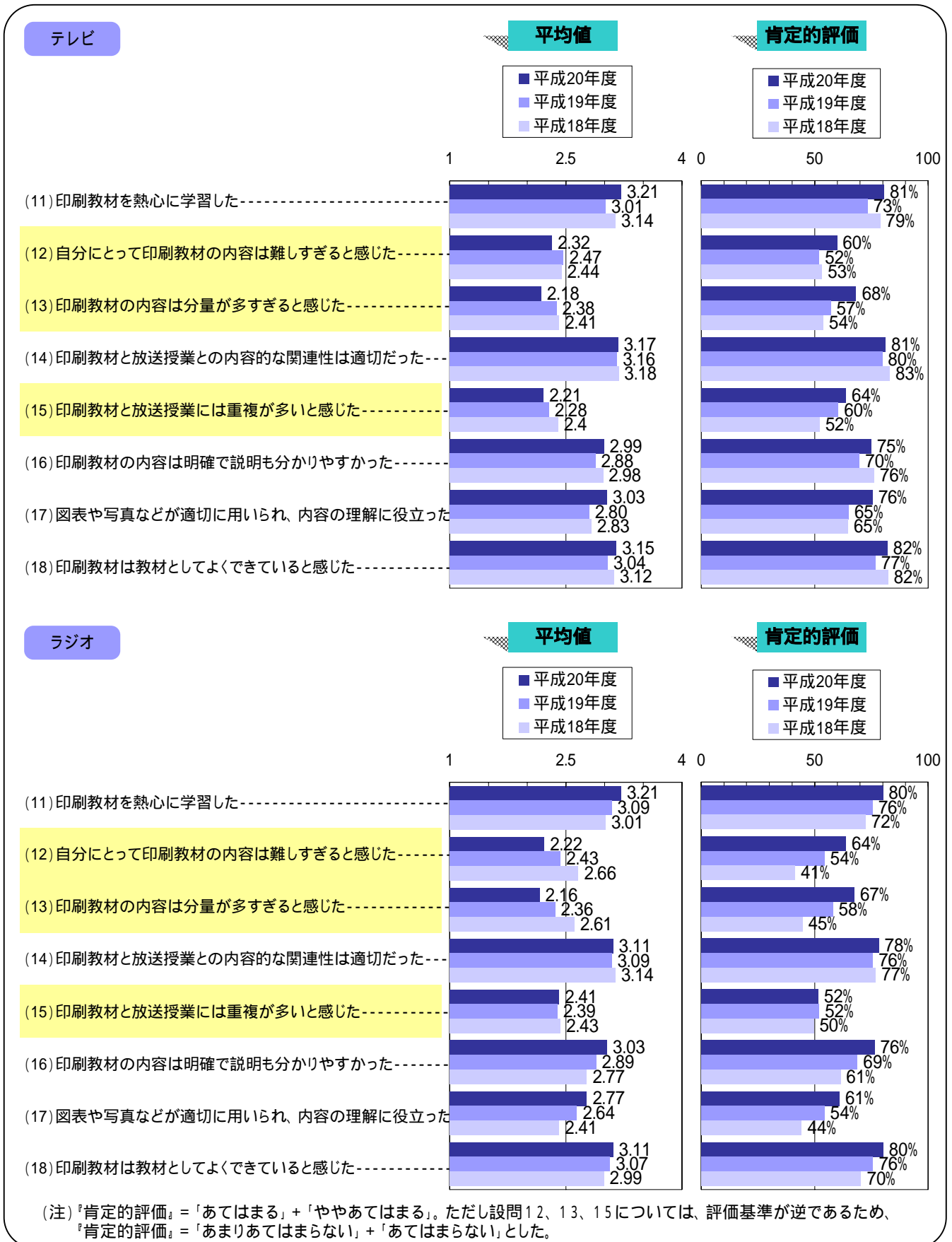
また、(11)「印刷教材を熱心に学習した」をはじめ、そのほかの項目においては、テレビ科目とラジオ科目で大きな差は見られない。

図2-10 【学部】メディア別の「印刷教材」評価



メディア別に印刷教材の時系列評価を見ると(図2-11)、テレビ科目は、前回に比べ(11)「印刷教材を熱心に学習した」という学生が増加し、総合評価の(18)「印刷教

図2-11 【学部】メディア別の「印刷教材」評価(時系列)

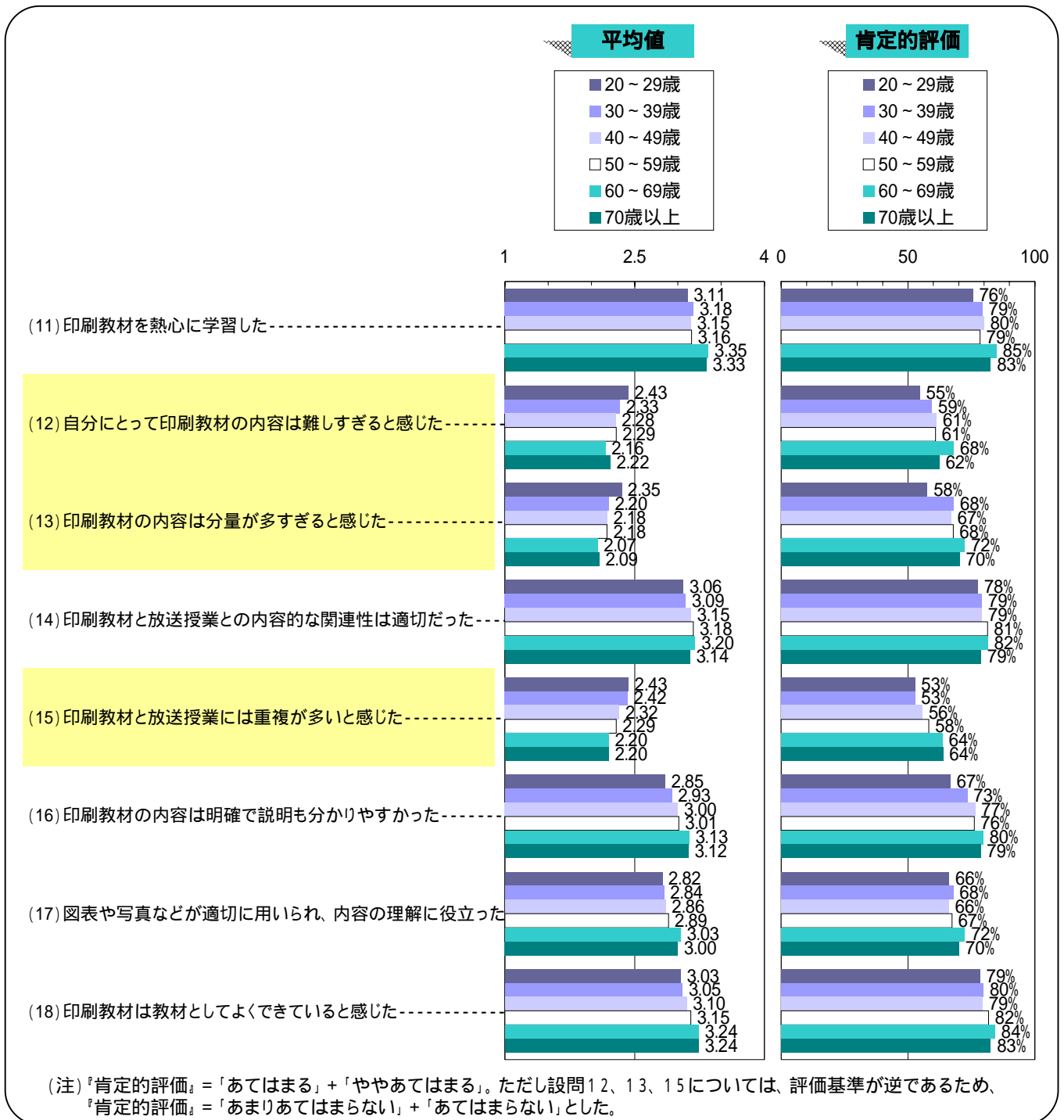


材は教材としてよくできていると感じた」も前回より評価値が高くなっている。そのほか、(12)「印刷教材の内容は難しすぎると感じた」、(16)「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」、(17)「図表や写真等が適切に用いられ、内容の理解に役立った」も前回より評価が高まっている。さらに(13)「印刷教材の内容は分量が多すぎると感じた」、(15)「印刷教材と放送授業には重複が多いと感じた」は、年々、肯定的評価が多くなっており、改善されている様子が窺える。

ラジオ科目については、(11)「印刷教材を熱心に学習した」という学生が年々増加し、総合評価の(18)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」も年々評価値が高くなっている。さらに(12)「印刷教材の内容は難しすぎると感じた」、(13)「印刷教材の内容は分量が多すぎると感じた」、(16)「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」、(17)「図表や写真等が適切に用いられ、内容の理解に役立った」等の具体的な内容についても年々評価が高まっている。しかし(15)「印刷教材と放送授業には重複が多いと感じた」は評価値が低いにも関わらず、ほとんど改善の様子が見られない。

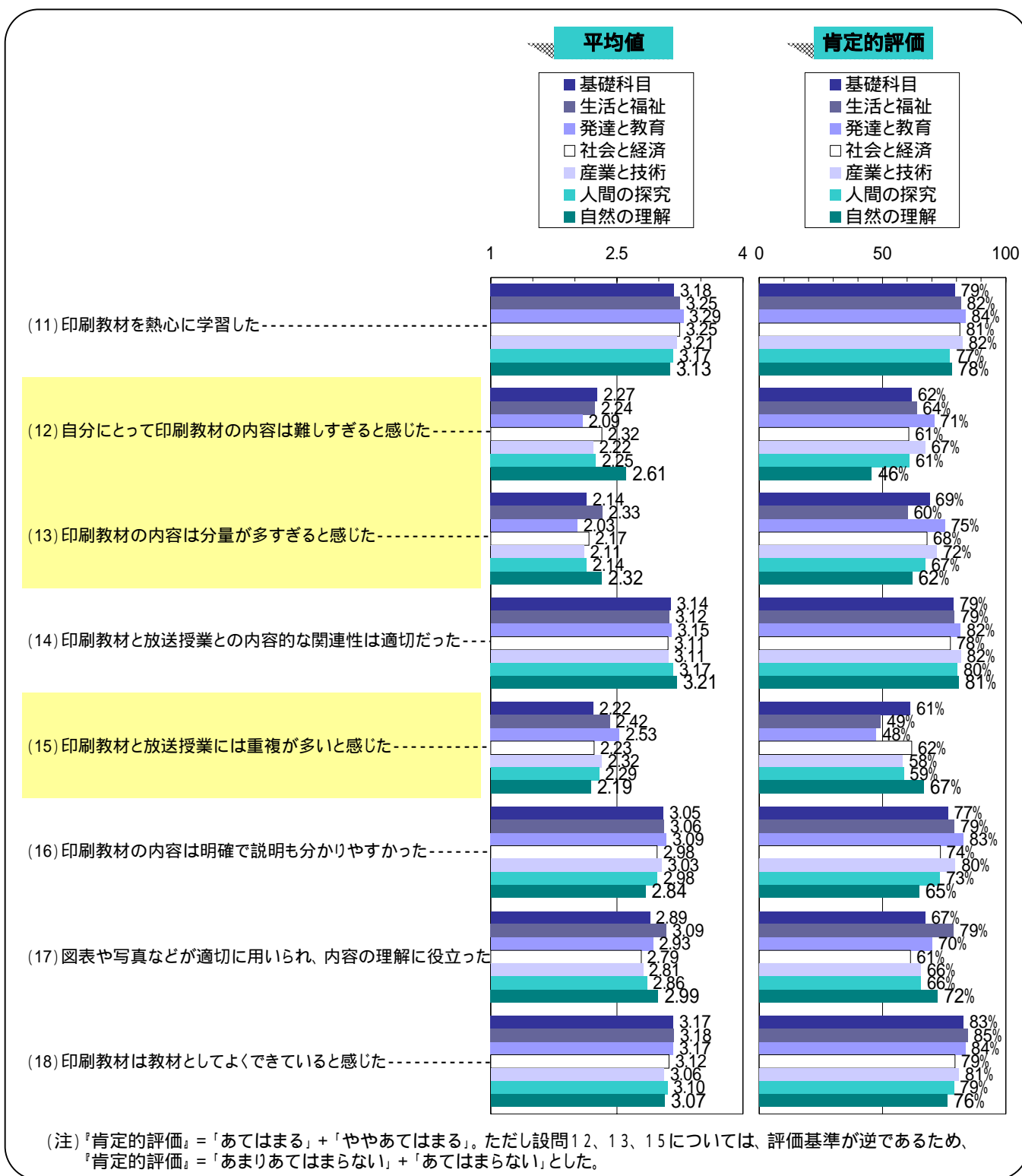
次に印刷教材に関して、学部生の年齢階層別に見ていくと(図2-12)、放送授業と同様に、(11)「印刷教材を熱心に学習した」は60代以上の高齢者層で多くなっている。その他の項目についても、年齢の高い階層ほど評価値が高くなる傾向が見られるが、特に(15)「印刷教材と放送授業には重複が多いと感じた」、(16)「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」は年齢階層による評価差が大きい。

図2-12 【学部】年齢階層別の「印刷教材」評価



科目の所属専攻別に印刷教材の評価を見ると(図2-13)(11)「印刷教材を熱心に学習した」という学生は、放送授業を十分に視聴したという学生が少ない「生活と福祉」および「発達と教育」で多くなっている。この2つの専攻は、総合評価の(18)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」の評価値も高く、放送授業の評価の低さとは逆に、印刷教材の評価が全般的に高いのが特徴である。ただし(15)「印刷教材と放送授業

図2-13 【学部】所属専攻別の「印刷教材」評価



業には重複が多いと感じた」という学生が多いことから、放送授業を十分に生かしていない結果がこうした評価につながっている可能性がある。

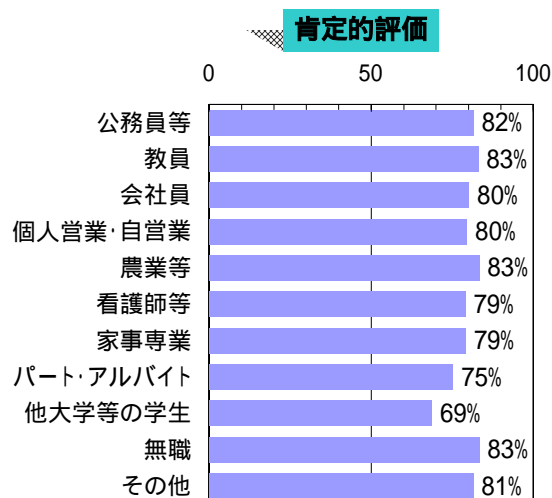
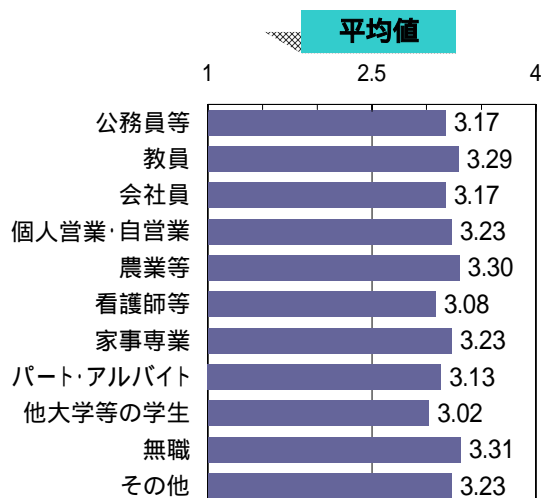
「自然の理解」は、放送授業と同様、(12)「印刷教材の内容は難しすぎと感じた」、(13)「印刷教材の内容は分量が多すぎと感じた」という授業内容の点で評価が低くなっている。

職業別に学習熱心度及び難易度・分量について見てみる(次頁の図2-14)。(11)「印刷教材を熱心に学習した」という学生は、他大学等の学生がやや少なくなっている。また放送授業を十分に視聴したという学生が少ない公務員等、教員、看護師等においては、逆に印刷教材を熱心に学習した学生が多い。

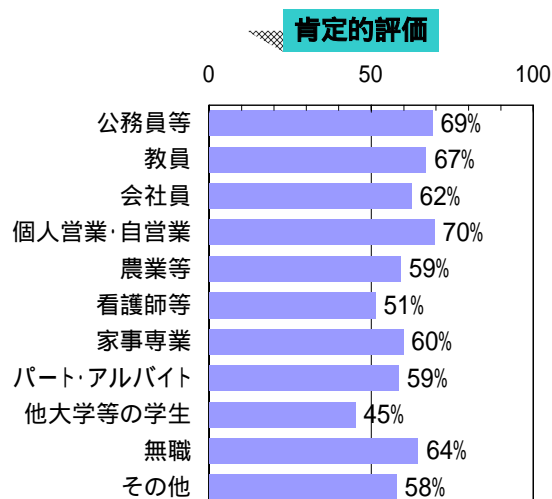
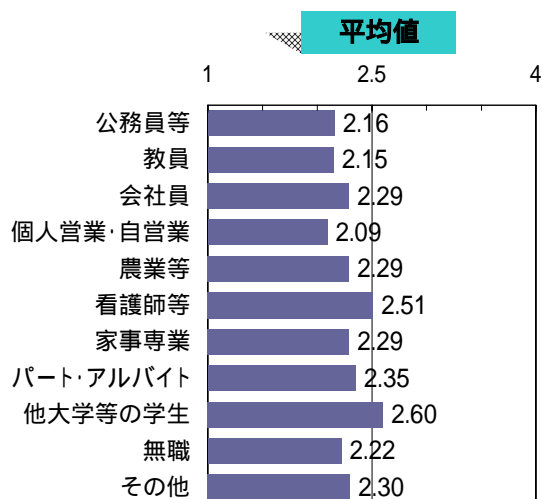
(12)「印刷教材の内容は難しすぎと感じた」、(13)「印刷教材の内容は分量が多すぎと感じた」は、放送授業と同様、看護師、他大学の学生で多く、個人営業・自営業、公務員等、教員でやや少なくなっている。

図 2 - 1 4 【学部】職業別の「印刷教材」評価

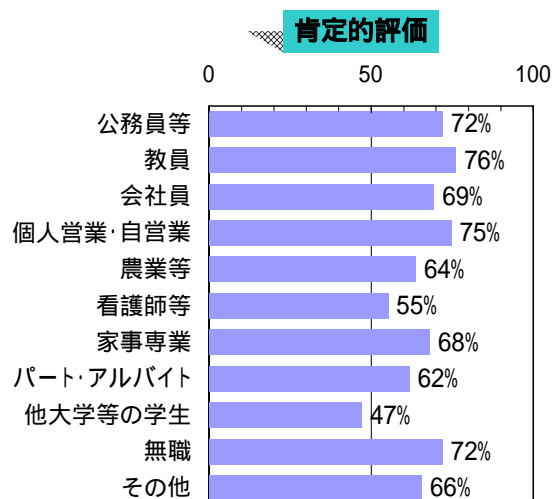
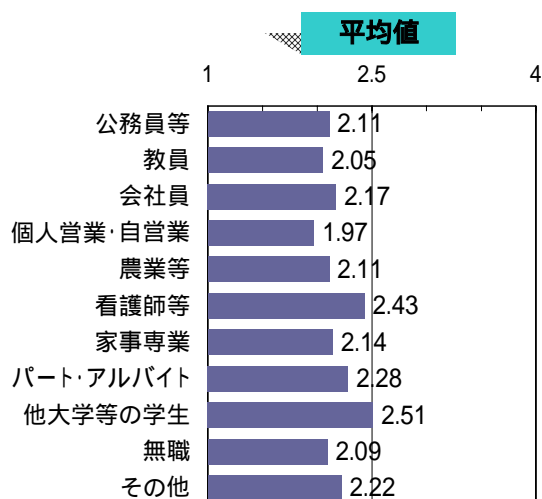
(11)印刷教材を熱心に学習した



(12)自分にとって印刷教材の内容は難しすぎと感じた



(13)印刷教材の内容は分量が多すぎと感じた



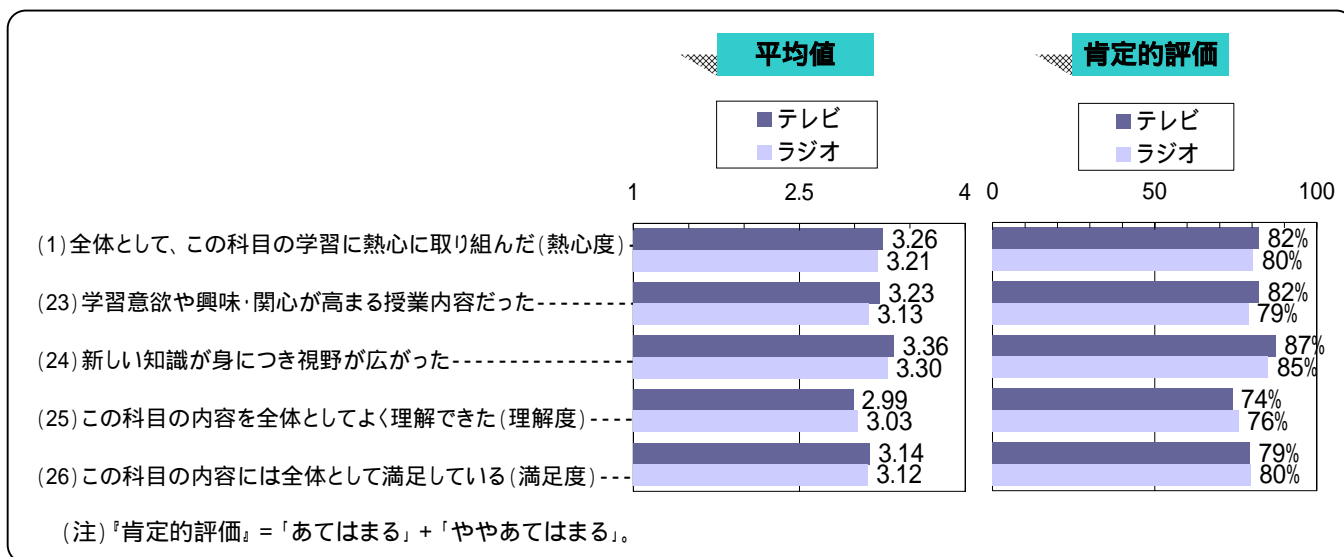
(注) 『肯定的評価』=「あてはまる」+「ややあてはまる」。ただし設問12、13については、評価基準が逆であるため、『肯定的評価』=「あまりあてはまらない」+「あてはまらない」とした。

(3) 科目全体の評価（取り組み姿勢・理解度・満足度等）

ここでは、科目全体の評価である学習への取り組み姿勢及び理解度・満足度を、科目特性や属性別に見ていく。

まずメディア別に見ると(図2-15)、(23)「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」は、テレビ科目の方がやや評価が高いが、(1)「全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)」、(25)「この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)」、(26)「この科目の内容には全体として満足している(満足度)」は、あまり大きな差は見られない。放送授業や印刷教材ではメディア間で評価の差が見られたが、総合的な評価では差は少ない。

図2-15 【学部】メディア別の全体評価



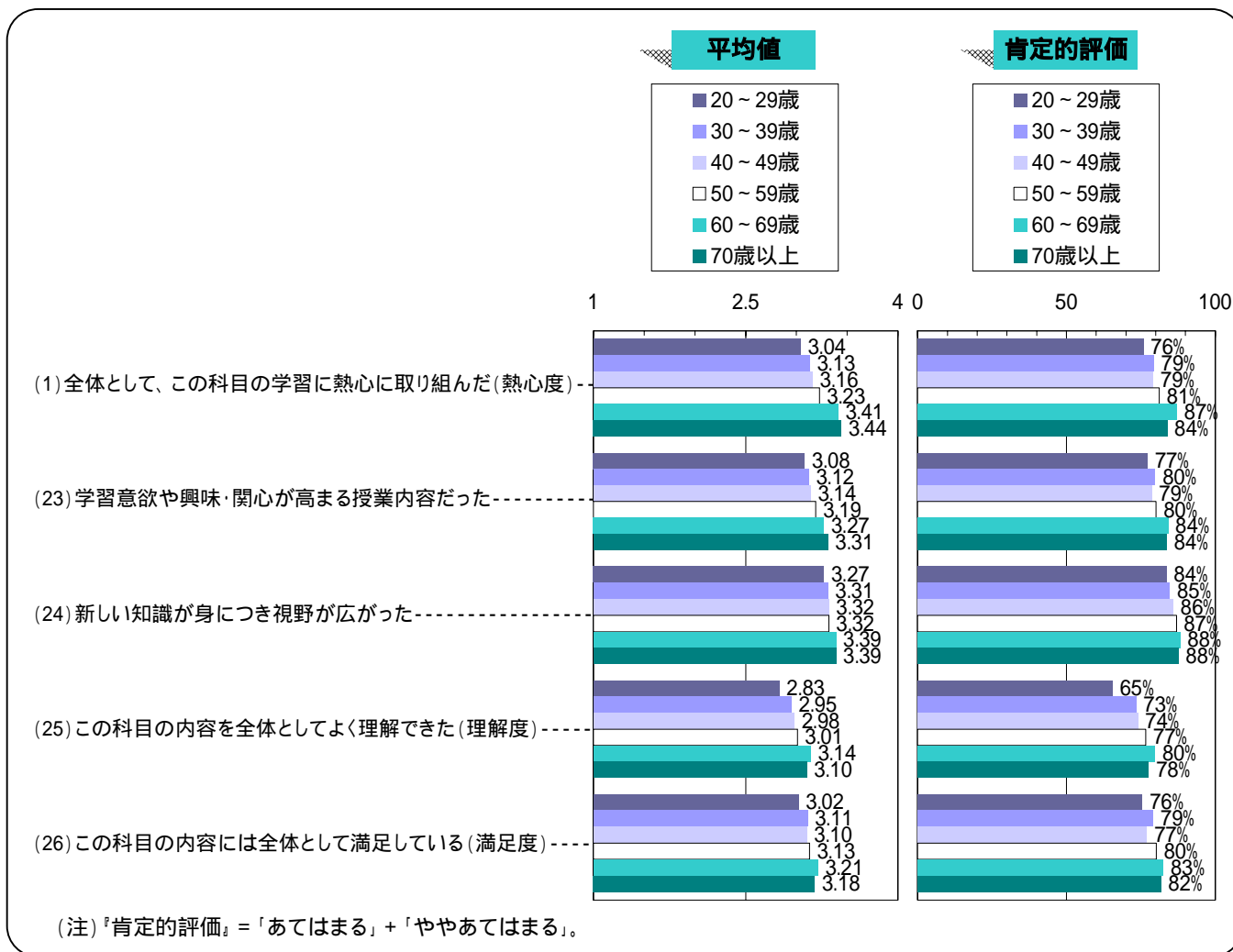
またメディア別に時系列評価を見みると(次頁図2-16)、テレビ科目はいずれの項目も前回下がった評価値が、今回は逆に上がっている。一方、ラジオ科目は年々評価が上がってきており、特に(23)「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」、(25)「この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)」、(26)「この科目の内容には全体として満足している(満足度)」は、大きく評価が上がっている。この結果、テレビ科目とラジオ科目の評価差が少なくなっていると言える。

図2 - 16 【学部】メディア別の全体評価（時系列）



学部生の年齢階層別に見ると(図2-17) いずれの全体評価も年齢の高い階層ほど評価値が高くなっている。高齢者ほど(1)「全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)」という学生が多く、(25)「この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)」、(26)「この科目の内容には全体として満足している(満足度)」という学生が多くなっている。

図2-17 【学部】年齢階層別の全体評価



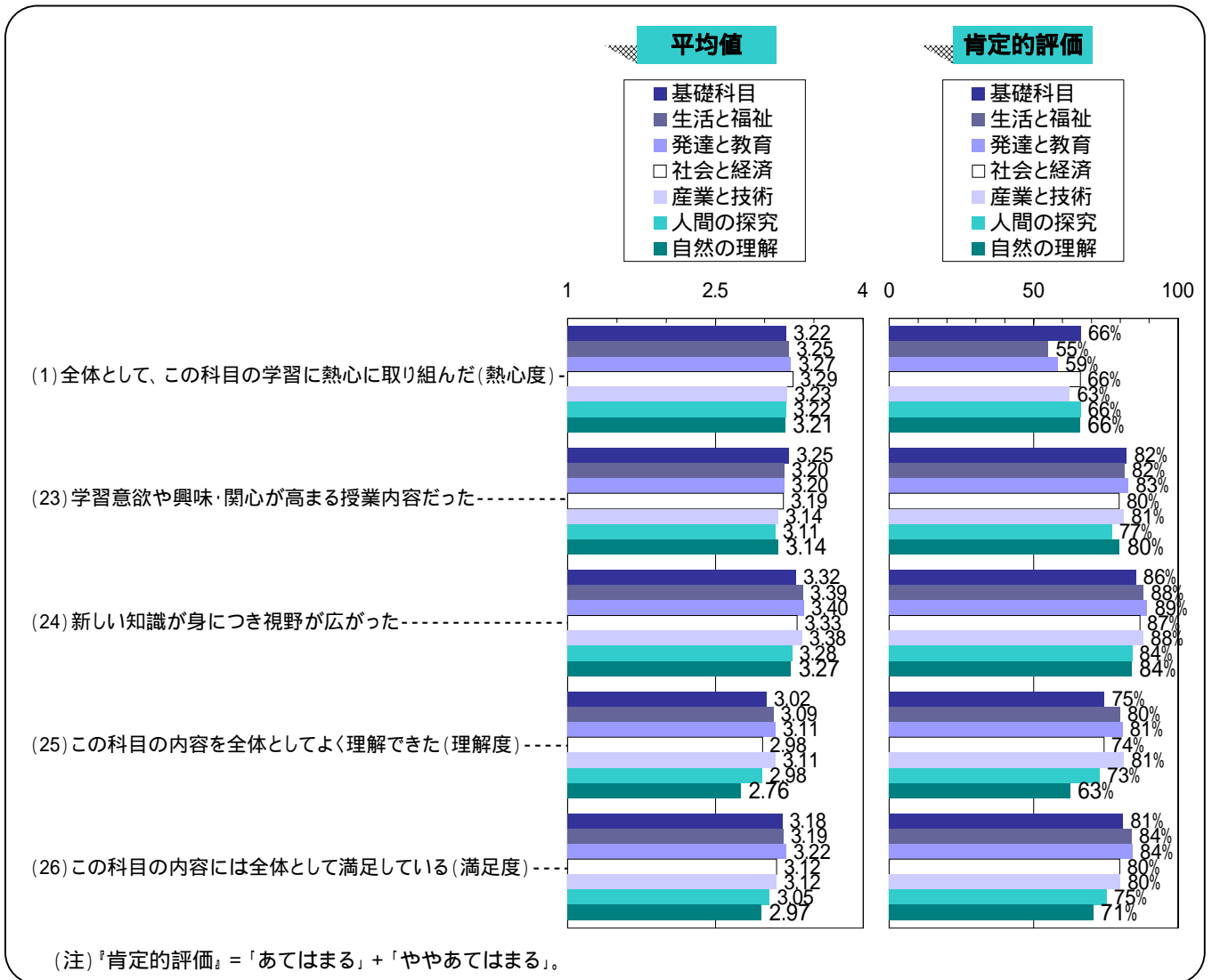
科目の所属専攻別に見ると(次頁図2-18) 「生活と福祉」及び「発達と教育」は(1)「全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)」という学生は少ないものの、(25)「この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)」と(26)「この科目の内容には全体として満足している(満足度)」は最も高くなっている。

逆に「自然の理解」は、理解度と満足度が最も低く、次いで「人間の探求」が低くなっている。

(23)「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」と(24)「新しい知識が身につく視野が広がった」は専攻間の差は少なく、いずれの専攻も比較的高い評価となっている。

いる。

図 2 - 1 8 【学部】所属専攻別の全体評価

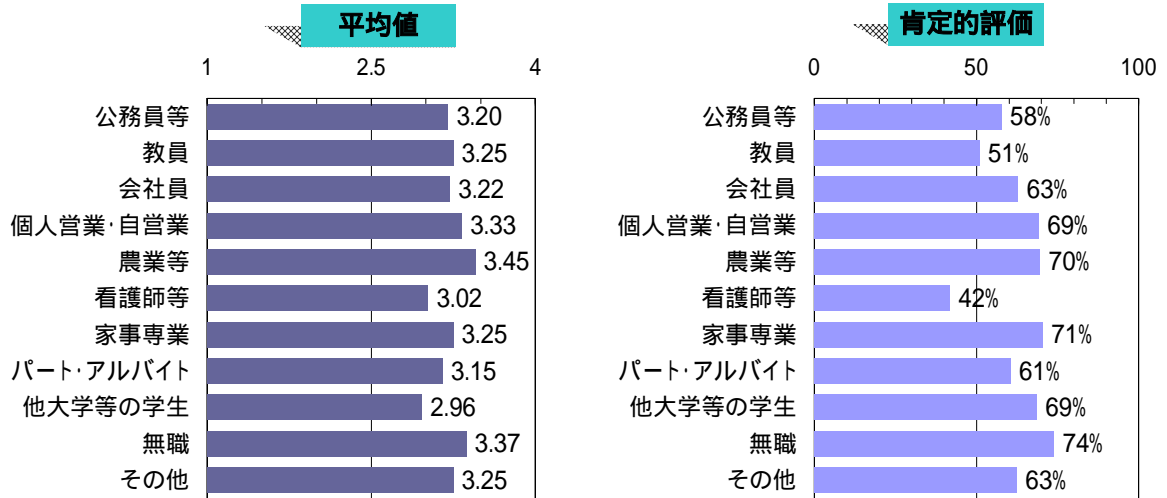


職業別に全体的な学習熱心度及び理解度・満足度について見てみる(次頁図 2 - 1 9)。 (1)「全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)」という学生は、無職、家事専業、農業など、個人営業・自営業、他大学の学生で多く、看護師等、教員、公務員等で少ない。

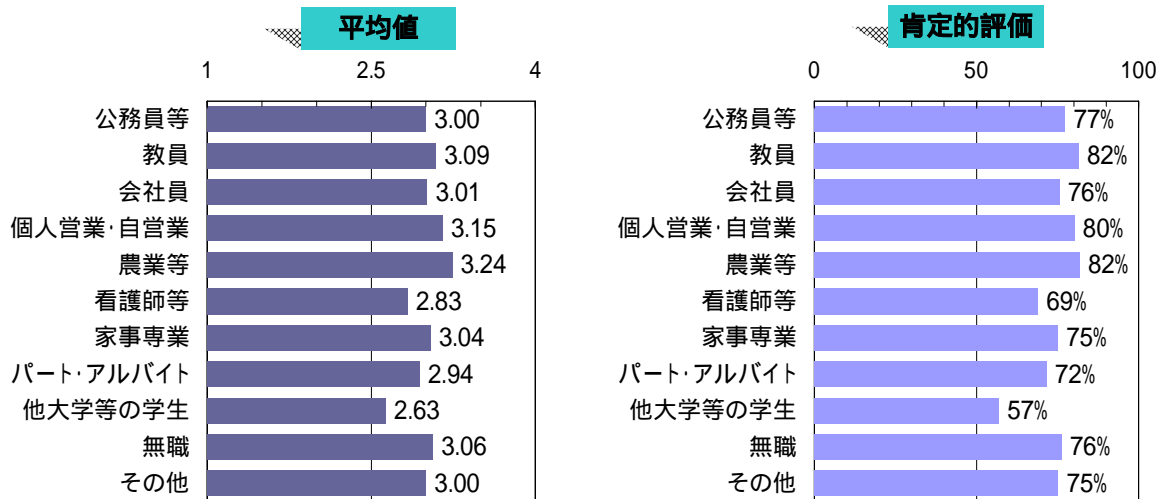
また(25)「この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)」及び(26)「この科目の内容には全体として満足している(満足度)」は、他大学の学生と看護師等が他に比べ低くなっている。

図 2 - 1 9 【学部】職業別の全体評価

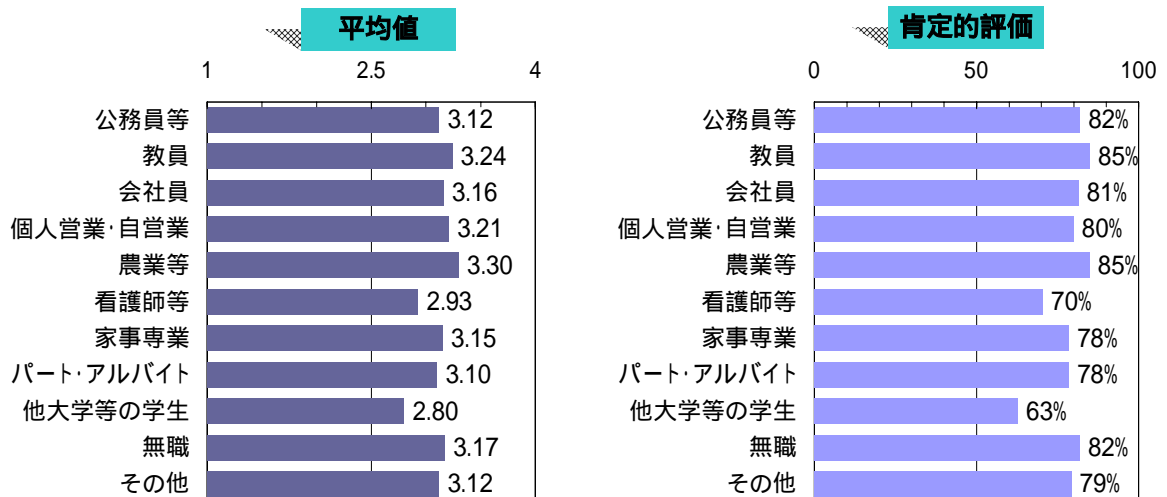
(1)全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)



(25)この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)



(26)この科目の内容には全体として満足している(満足度)



(注)『肯定的評価』=「あてはまる」+「ややあてはまる」。

(4) 参考

ここでは評価項目間の相関を見ることによって、より深く授業改善の糸口を探っていくことにする。分析には主にピアソンの単相関係数（以下、相関係数）を用いた。相関係数は 1.0 から - 1.0 までの値をとり、二つの変数間の変化のいわば「足並み」を示す指標である。それらが共変する場合（つまり片方の値が高ければもう一方も高く、低ければ低いという場合）は 1.0 に近づき、逆の変化をする場合は - 1.0 に近づく。両者の変化に関係性がない場合は 0 に近づく。ただし、相関係数による分析では、変数間の共変関係は分かっても、因果関係（つまりどちらが原因となる変数で、どちらが結果かということ）は分からないのが普通である。以下の分析ではそのことを十分留意していただきたい。ただ、総合的な評価は個別の評価を考慮し、総合してなされるであろうことは想像に難くない。そのことを前提として、総合評価と個別評価との関係を見ていくことにしよう。

表 2 - 2 は、放送授業の各評価項目と(3)「放送授業を十分に視聴した(視聴度)」及び(9)「放送授業は教材としてよくできている(放送授業の総合評価)」の相関係数である。これを見ると、まず(3)「放送授業を十分に視聴した(視聴度)」と(9)「放送授業は教材としてよくできている(放送授業の総合評価)」との相関係数は 0.356(全体)と緩やかな相関が見てとれる。つまり視聴度の高い学生ほど、放送授業の総合評価が高い、あるいは逆に放送授業の総合評価が高い学生ほど、十分に視聴しているという関係にあると言える(おそらく相互作用の関係にあるものと思われる)。

表 2 - 2 【学部】放送授業と各項目との単相関係数

	【全体】		テレビ		ラジオ	
	(3)十分に視聴した	(9)教材としてよくできている	(3)十分に視聴した	(9)教材としてよくできている	(3)十分に視聴した	(9)教材としてよくできている
(3)放送授業を十分に視聴した(視聴度)	1.000	0.356	1.000	0.356	1.000	0.340
(4)自分にとって放送授業の内容は難しすぎと感じた	-0.033	0.069	0.002	0.107	-0.059	0.040
(5)放送授業の内容は分量が多すぎと感じた	0.044	0.123	0.073	0.162	0.015	0.084
(6)放送授業は印刷教材や台本を読んでいるだけという印象で物足りなかった	0.135	0.320	0.186	0.346	0.058	0.273
(7)講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった	0.375	0.676	0.365	0.669	0.374	0.679
(8)講師の熱意が十分に伝わった	0.405	0.677	0.397	0.682	0.401	0.666
(9)放送授業は教材としてよくできていると感じた(放送授業の総合評価)	0.356	1.000	0.356	1.000	0.340	1.000
(10) [TV]テレビの特性が十分に生かされていると感じた [R]映像がなくても十分理解できる内容だと感じた	0.358	0.571	0.395	0.649	0.298	0.485

(注)設問4、5、6については、他の項目と評価基準が逆であるため、回答を4 1、3 2、2 3、1 4と逆転した上で、相関係数を算出している。

また(3)「放送授業を十分に視聴した(視聴度)」と(9)「放送授業は教材としてよく

できている（放送授業の総合評価）」は、(7)「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」、(8)「講師の熱意が十分に伝わった」、(10)「【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた / 【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」との相関が見られる。特に(9)「放送授業は教材としてよくできている（放送授業の総合評価）」は、これらの項目と強い相関が見られるため、放送授業の総合的な評価を高めるためには、ポイントをおさえた分かりやすい説明や講師の熱意、さらにテレビ科目では映像を生かした放送、ラジオ科目では映像がなくても理解できる内容であることが、特に重要であると推察される。さらにこうした放送授業であれば多少なりとも視聴度をあげる要因にもなりうると言えよう。

なお各評価項目間の相関係数は、テレビ科目とラジオ科目であまり大きな差は見られない。後述の印刷教材及び全体評価についても同様のことが言える。

表 2 - 3 【学部】印刷教材と各項目との単相関係数

	【全体】		テレビ		ラジオ	
	(11)熱心に学習した	(18)教材としてよくできている	(11)熱心に学習した	(18)教材としてよくできている	(11)熱心に学習した	(18)教材としてよくできている
(11)印刷教材を熱心に学習した(熱心度)	1.000	0.326	1.000	0.317	1.000	0.335
(12)自分にとって印刷教材の内容は難しすぎると感じた	0.124	0.241	0.134	0.276	0.113	0.209
(13)印刷教材の内容は分量が多すぎると感じた	0.123	0.248	0.116	0.280	0.131	0.215
(14)印刷教材と放送授業との内容的な関連性は適切だった	0.203	0.416	0.206	0.454	0.200	0.376
(15)印刷教材と放送授業には重複が多いと感じた	-0.019	0.069	0.020	0.089	-0.057	0.045
(16)印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった	0.317	0.683	0.304	0.680	0.331	0.688
(17)図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った	0.259	0.627	0.283	0.682	0.244	0.583
(18)印刷教材は教材としてよくできていると感じた(印刷教材の総合評価)	0.326	1.000	0.317	1.000	0.335	1.000

(注)設問12、13、15については、他の項目と評価基準が逆であるため、回答を4、1、3、2、2、3、1、4と逆転した上で、相関係数を算出している。

次に印刷教材の各評価項目と(11)「印刷教材を熱心に学習した(熱心度)」及び印刷教材の総合評価である(18)「印刷教材は教材としてよくできている(印刷教材の総合評価)」の相関をしてみる(表2-3)。(11)「印刷教材を熱心に学習した(熱心度)」と(18)「印刷教材は教材としてよくできている(印刷教材の総合評価)」の相関係数は、こちらも0.326(全体)と弱いながらも相関が見られ、印刷教材を熱心に学習した学生ほど、教材の評価が高いと考えられる(その逆の関係も想定される)。また(18)「印刷教材は教材としてよくできている(印刷教材の総合評価)」は、(16)「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」と(17)「図表や写真等が適切に用いられ、内容の理解に役立つ

た」とやや強い相関が見られ、さらに(14)「印刷教材と放送授業との内容的な関連性は適切だった」とも相関が見られる。したがって印刷教材の総合評価を高めるためには、教材の説明の分かりやすさ、図表・写真等の掲載、放送授業の内容との関連性等が特に重要であると推察される。

表2 - 4 【学部】全体評価と各項目との単相関係数

	【全体】			テレビ			ラジオ				
	(1) 熱心度	(25) 理解度	(26) 満足度	(1) 熱心度	(25) 理解度	(26) 満足度	(1) 熱心度	(25) 理解度	(26) 満足度		
	(1)全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)	1.000	0.499	0.466	1.000	0.498	0.461	1.000	0.502	0.471	
	(2)授業科目前はこの科目の内容を知る上で役に立った	0.391	0.423	0.490	0.379	0.439	0.499	0.404	0.407	0.482	
放送授業	(3)放送授業を十分に視聴した(視聴度)	0.550	0.290	0.257	0.564	0.295	0.263	0.535	0.292	0.250	
	(4)自分にとって放送授業の内容は難しすぎると感じた	0.138	0.429	0.322	0.162	0.476	0.367	0.116	0.374	0.274	
	(5)放送授業の内容は分量が多すぎると感じた	0.149	0.354	0.307	0.165	0.374	0.336	0.131	0.333	0.274	
	(6)放送授業は印刷教材や台本を読んでいるだけという印象で物足りなかった	0.131	0.222	0.316	0.197	0.269	0.361	0.060	0.188	0.272	
	(7)講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった	0.332	0.453	0.507	0.362	0.464	0.520	0.298	0.448	0.492	
	(8)講師の熱意が十分に伝わった	0.319	0.355	0.458	0.347	0.365	0.449	0.287	0.352	0.468	
	(9)放送授業は教材としてよくできていると感じた(放送授業の総合評価)	0.331	0.418	0.528	0.345	0.444	0.537	0.314	0.401	0.519	
	(10)TVテレビの特性が十分に生かされていると感じた IR映像がなくても十分理解できる内容だと感じた	0.278	0.366	0.413	0.323	0.391	0.458	0.231	0.367	0.379	
	印刷教材	(11)印刷教材を熱心に学習した(熱心度)	0.693	0.448	0.388	0.681	0.433	0.351	0.707	0.463	0.427
		(12)自分にとって印刷教材の内容は難しすぎると感じた	0.154	0.440	0.322	0.190	0.479	0.361	0.121	0.396	0.283
(13)印刷教材の内容は分量が多すぎると感じた		0.149	0.365	0.306	0.171	0.377	0.329	0.128	0.351	0.282	
(14)印刷教材と放送授業との内容的な関連性は適切だった		0.264	0.328	0.394	0.275	0.358	0.410	0.250	0.300	0.376	
(15)印刷教材と放送授業には重複が多いと感じた		0.018	0.032	0.080	0.056	0.046	0.088	-0.027	0.024	0.067	
(16)印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった		0.332	0.551	0.581	0.329	0.569	0.585	0.337	0.531	0.579	
(17)図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った		0.279	0.410	0.469	0.304	0.465	0.514	0.253	0.375	0.432	
(18)印刷教材は教材としてよくできていると感じた(印刷教材の総合評価)		0.335	0.501	0.606	0.337	0.527	0.606	0.331	0.476	0.606	
通信指導・試験	(19)通信指導のコメントは納得のいくものだった	0.252	0.343	0.420	0.250	0.337	0.413	0.259	0.349	0.430	
	(20)通信指導は学習内容の理解に役立った	0.300	0.393	0.470	0.293	0.398	0.471	0.309	0.387	0.469	
	(21)単位認定試験にはほとんど印刷教材の学習だけで臨んだ	0.090	0.016	0.015	0.111	0.048	0.037	0.062	-0.016	-0.015	
	(22)単位認定試験の問題は科目内容の理解度ををはかるのにふさわしい内容だった	0.274	0.401	0.489	0.264	0.400	0.475	0.287	0.401	0.506	
全体評価	(23)学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった	0.478	0.614	0.732	0.477	0.630	0.737	0.478	0.603	0.728	
	(24)新しい知識が身につく視野が広がった	0.447	0.588	0.680	0.441	0.585	0.673	0.451	0.594	0.688	
	(25)この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)	0.499	1.000	0.732	0.498	1.000	0.749	0.502	1.000	0.716	
	(26)この科目の内容には全体として満足している(満足度)	0.466	0.732	1.000	0.461	0.749	1.000	0.471	0.716	1.000	

(注)設問4、5、6、12、13、15、21については、他の項目と評価基準が逆であるため、回答を4 1、3 2、2 3、1 4と逆転した上で、相関係数を算出している。

また全評価項目と(1)「全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)」、(25)「この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)」、(26)「この科目の内容には全体として満足している(満足度)」の相関を見してみる(前頁表2-4)。

まず(1)「全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)」は、(3)「放送授業を十分に視聴した(視聴度)」、(11)「印刷教材を熱心に学習した(熱心度)」等個別の視聴度・熱心度との相関が強いのは当然であるが、さらに(23)「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」、(24)「新しい知識が身につく視野が広がった」及び(25)「この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)」、(26)「この科目の内容には全体として満足している(満足度)」との間にも相関が見られる。つまり熱心な学生ほど、授業内容や理解度、満足度の評価が高いことが推測できるし、逆に理解度や満足度が高い科目ほど熱心に視聴するとも言えよう。

(25)「この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)」と各評価項目間の相関を見ると、(26)「この科目の内容には全体として満足している(満足度)」との間に強い相関が見られるほか、(4)「放送授業の内容は難しすぎると感じた」、(7)「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」、(9)「放送授業は教材としてよくできている(放送授業の総合評価)」、(12)「印刷教材の内容は難しすぎると感じた」、(16)「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」、(17)「図表や写真等が適切に用いられ、内容の理解に役立った」、(18)「印刷教材は教材としてよくできている(印刷教材の総合評価)」、(22)「単位認定試験の問題は科目内容の理解度をはかるのにふさわしい内容だった」、それに(23)「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」、(24)「新しい知識が身につく視野が広がった」等との相関が見られる。理解度については、単に放送授業や印刷教材の難易度や分かりやすさ、出来栄だけでなく、授業内容への興味・関心や知識の習得といった側面とも関連していることが窺える。

(26)「この科目の内容には全体として満足している(満足度)」との相関が強い項目は、(25)「この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)」のほか、(7)「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」、(8)「講師の熱意が十分に伝わった」、(9)「放送授業は教材としてよくできている(放送授業の総合評価)」、(10)「テレビの特性が十分に生かされていると感じた/映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」、(16)「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」、(17)「図表や写真等が適切に用いられ、内容の理解に役立った」、(18)「印刷教材は教材としてよくできている(印刷教材の総合評価)」、及び(23)「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」、(24)「新しい知識が身につく視野が広がった」等となっている。科目の満足度は、難易度や分量よりも、説明の分かりやすさや授業・教材の出来栄、授業内容への興味・関心や知識の習得との関連が強いと言える。なお、理解度と満足度とは0.732(全体)とやや強い相関が見られるが、理解度が高かったので満足度が高くなったのか、あるいは満足度が高いために理解度も高くなったのかは、簡単には結論を導き出せない。おそらく相

互に影響していると考えられる。

(評定尺度調査の分析結果)

- 2 . 大学院票結果の分析

- 2 - 1 . 回答者全体から見た評価

ここからは大学院科目の評価結果を見ていく。大学院の回答者全体について、評価項目ごとの結果を示したものが次頁の図 2 - 2 0 である。

まず全体評価を含めほとんどの項目で、学部生より評価が高くなっているという特徴があげられる。

全体評価の(26)「この科目の内容には全体として満足している(満足度)」は、平均値が3.31、肯定的評価(満足とした学生の割合)は84%と高い値を示している。学部生に比べ、平均値で0.18、肯定的評価で5%高くなっている。

(25)「この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)」に関しても、平均値3.17、肯定的評価(よく理解できたと思う学生)81%と学部生より高くなっている。

さらに(1)「全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)」も平均値3.38、肯定的評価(熱心に取り組んだという学生)86%と高くなっている。大学院生は学部生に比べ熱心度が高く、理解度及び満足度も高くなっている。なお、(24)「新しい知識が身につく視野が広がった」は評価項目のなかで最も評価が高く、肯定的評価は91%を占める。

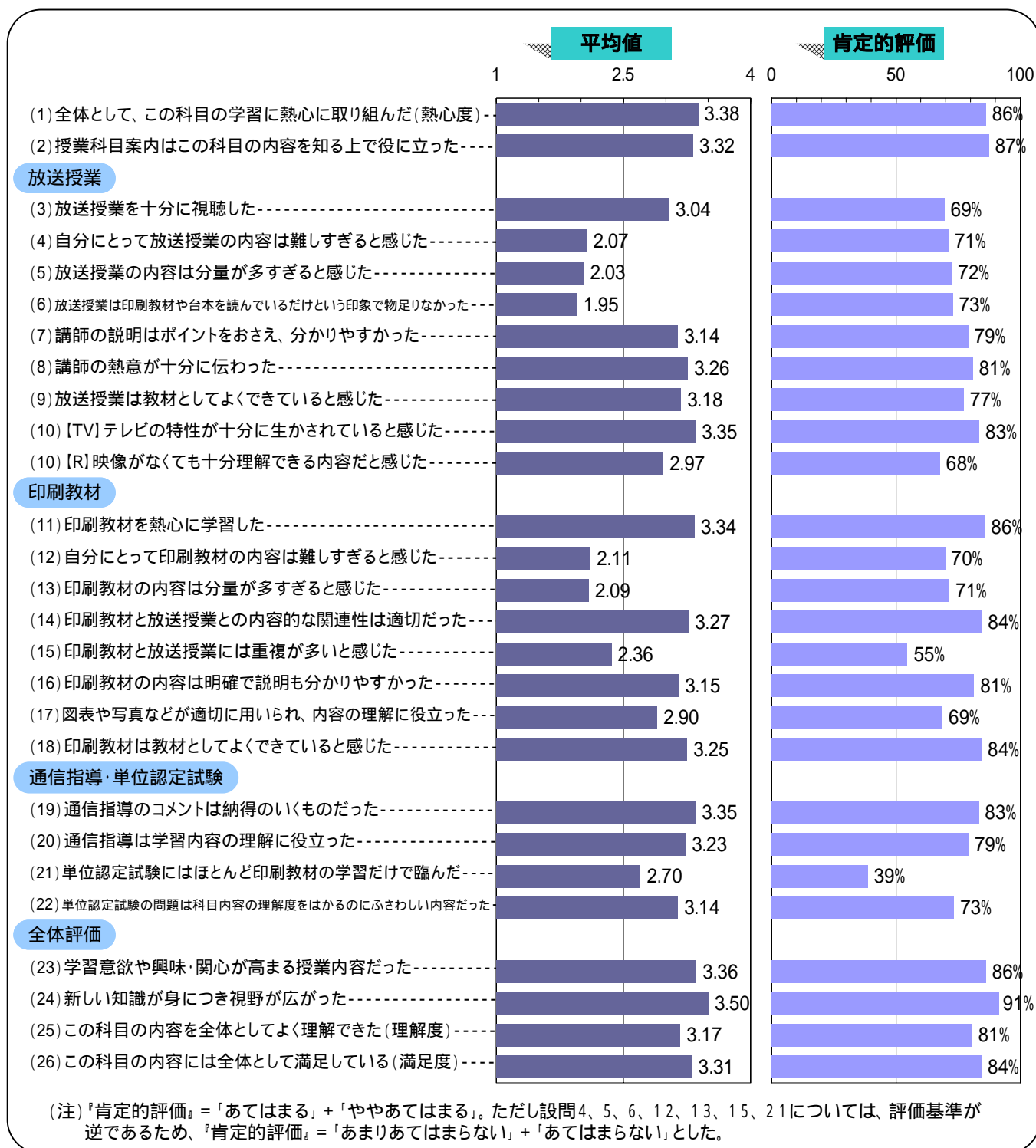
放送授業に関しては、放送授業の総合評価とも言える(9)「教材としてよくできていると感じた」は、平均値3.18、肯定的評価77%と比較的高くなっている。また(7)「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」、(8)「講師の熱意が十分に伝わった」等の講師の授業方法や、テレビ科目の(10)「テレビの特性が十分に生かされていると感じた」についても評価値が高くなっている。

しかし学部と同じく、ラジオ科目の(10)「映像がなくても十分に理解できる内容だと感じた」は、平均値2.97と低く、肯定的評価も68%にすぎず、改善が求められる

放送授業の内容については、(4)「難しすぎると感じた」、(5)「分量が多すぎると感じた」では、「そう思わない」という肯定的評価がそれぞれ70%強となっている。(4)「難しすぎると感じた」は学部生に比べ評価が高いが、(5)「分量が多すぎると感じた」については学部生と評価は変わらない。

(3)「放送授業を十分に視聴した」は、平均値3.04、肯定的評価69%と、印刷教材の(11)「印刷教材を熱心に学習した」(平均値3.34、肯定的評価86%)と比べるとかなり低い数字である。

図 2 - 2 0 【大学院】回答者全体の評価



印刷教材の総合評価とも言える(18)「教材としてよくできていると感じた」は、平均値 3.25、肯定的評価 84%と高い評価である。印刷教材の内容については、(14)「印刷教材と放送授業との内容的な関連性は適切だった」、(16)「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」の評価は高いが、(15)「印刷教材と放送授業には重複が多いと感じた」の評価が低く(「そう思わない」という肯定的評価は 55%)、印刷教材の内容と放送

授業の内容との関連性について吟味する必要がある。

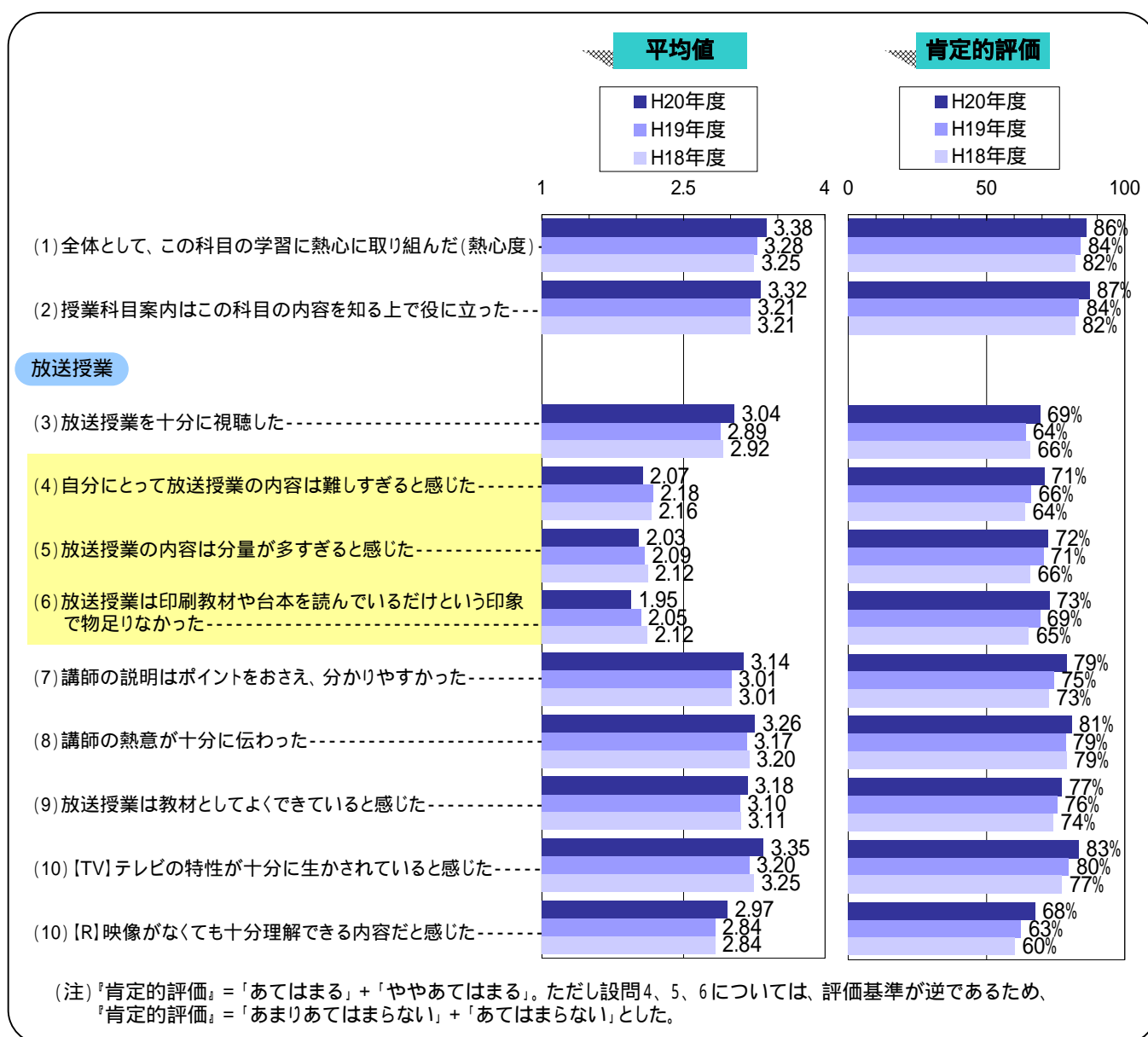
(12)「印刷教材の内容は難しすぎると感じた」、(13)「印刷教材の内容は分量が多すぎると感じた」では、「そう思わない」という肯定的評価がそれぞれ70%、71%であり、学部生に比べ難易度・分量の負担感は少ない。

通信指導の(19)「コメントは納得のいくものだった」、(20)「学習内容の理解に役立った」は、高い評価値を得ている。

一方、単位認定試験の(21)「単位認定試験にはほとんど印刷教材の学習だけで臨んだ」は、肯定的評価(「あてはまらない」とう学生)が39%と少なく、印刷教材だけで試験に臨んでいる学生が多い。

次に回答者全体の評価を、時系列比較で見てみる(図2-21~図2-23)。

図2-21 【大学院】回答者全体の評価(時系列)

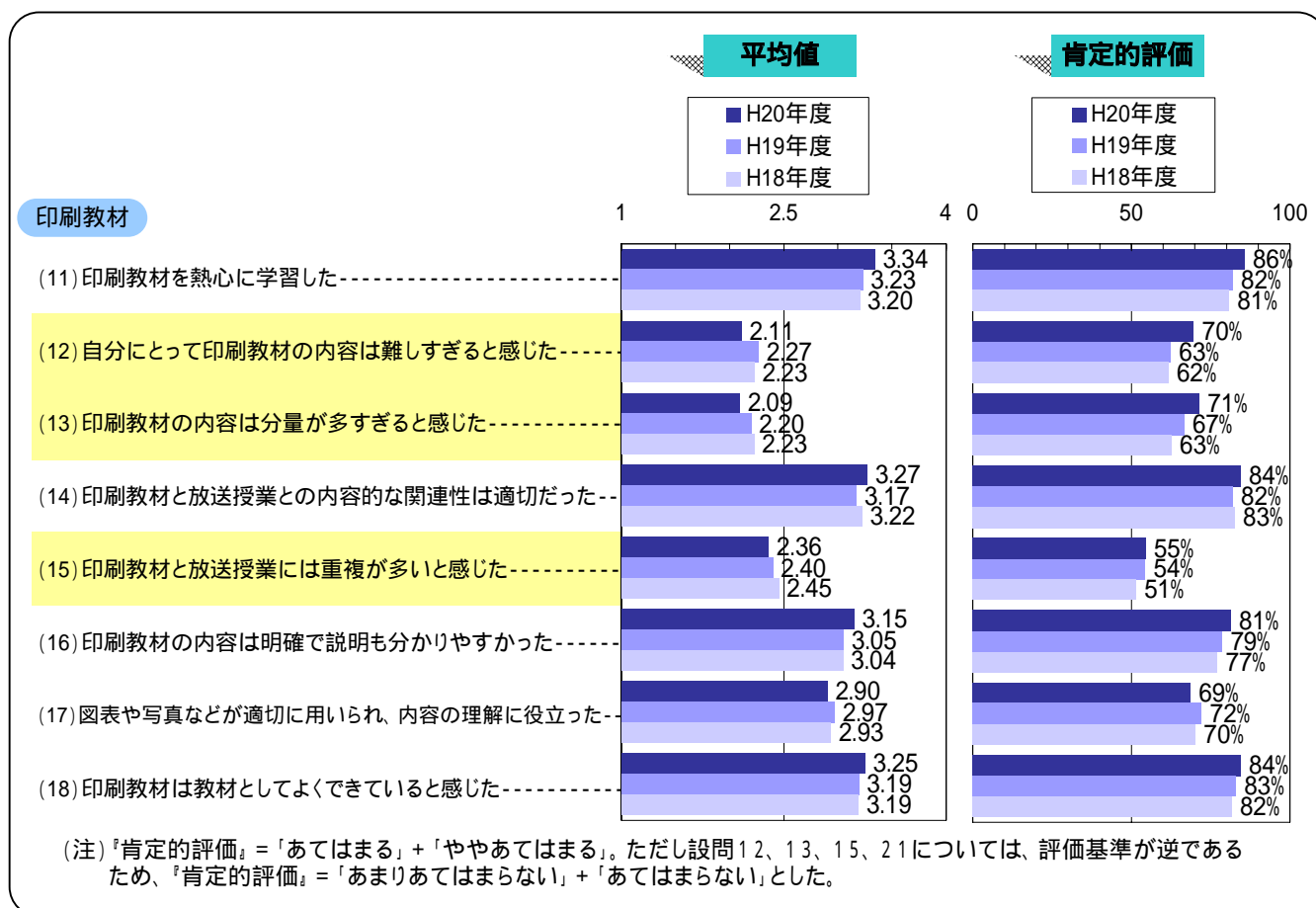


まず全般的に見てほとんどの評価項目において、徐々に評価が上がっている。評価平均値は前回あまり伸びていない項目が多いが、肯定的評価で見ると年々評価が上がっていることが分かる。

まず(1)「全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)」は僅かずつではあるが増えている。

また放送授業に関してはいずれの項目も年々評価が上がっている。特に他に比べやや評価が低い(4)「放送授業の内容は難しすぎと感じた」、(5)「放送授業の内容は分量が多すぎと感じた」、(6)「放送授業は印刷教材や台本を読んでいるだけという印象で物足りなかった」、ラジオ科目の(10)「映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」等は、大きく評価が上がっている。

図2-22【大学院】回答者全体の評価(時系列)

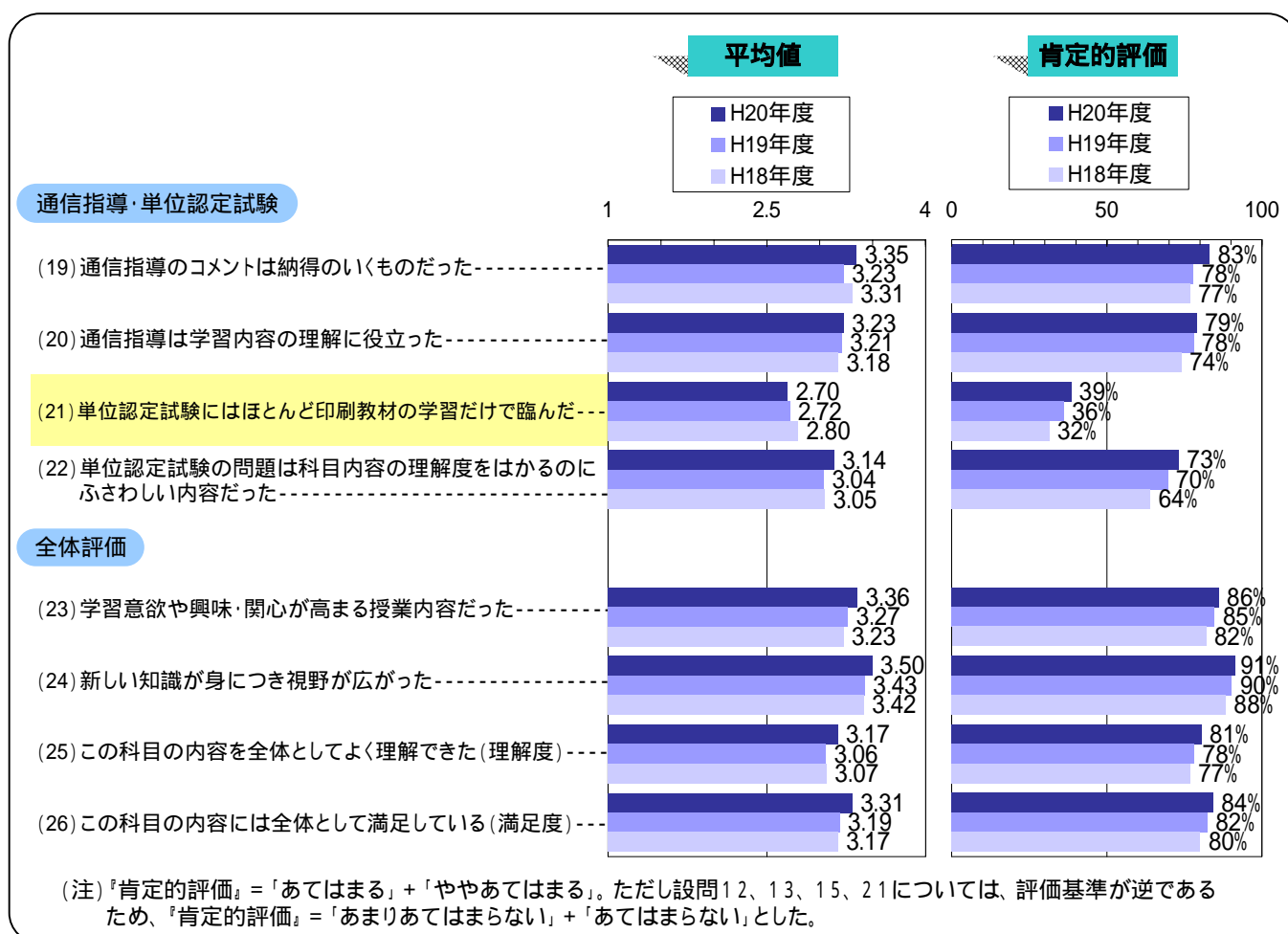


印刷教材については、(12)「印刷教材の内容は難しすぎと感じた」、(13)「印刷教材の内容は分量が多すぎと感じた」等、難易度や分量の評価は大きく上がっているが、もともと評価の低い(15)「印刷教材と放送授業には重複が多いと感じた」や、(17)「図表や写真等が適切に用いられ、内容の理解に役立った」は時系列でもあまり評価が上がっ

ておらず、いっそうの改善が求められる。総合評価である(18)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」はもともと評価が高いが、時系列での評価の向上度合いは放送授業の総合評価に比べて小さい。

全体評価である(25)「この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)」や(26)「この科目の内容には全体として満足している(満足度)」は、年々評価が上がっており、改善の効果が表れていると言える。

図 2 - 2 3 【大学院】回答者全体の評価（時系列）



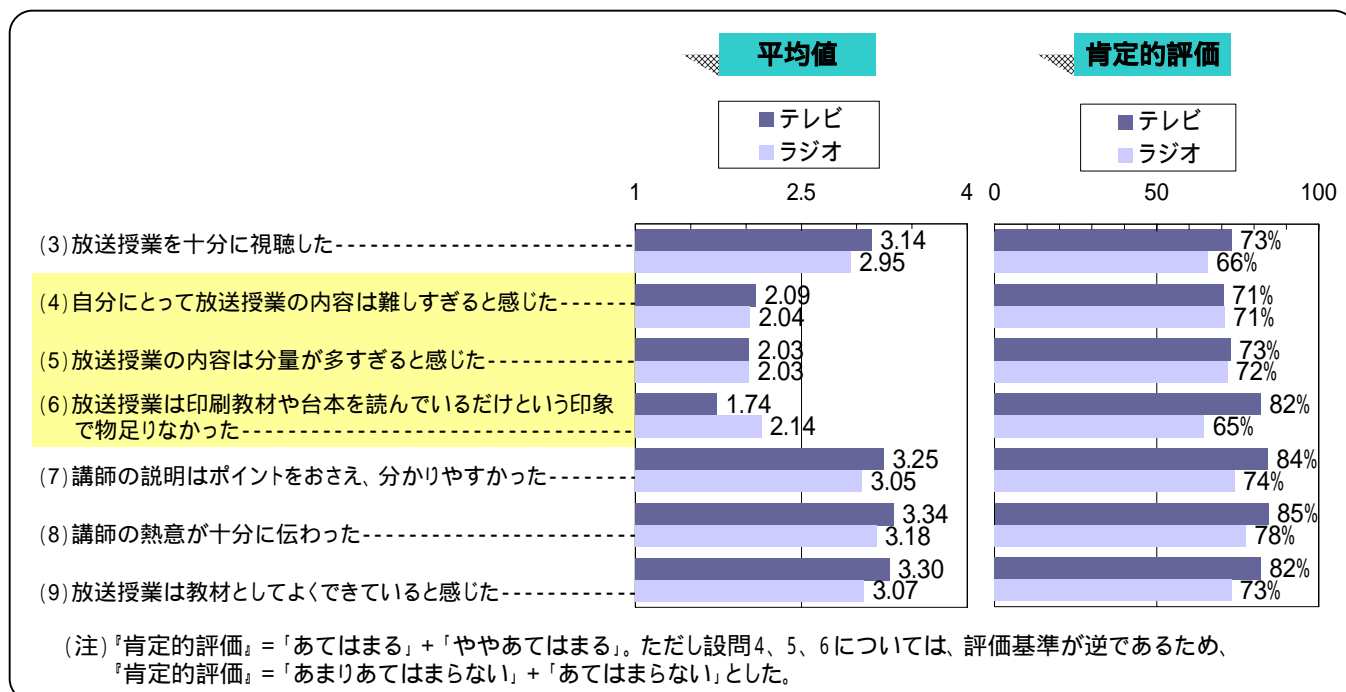
(1) 放送授業に関する評価結果

ここからは、大学院の各評価項目に関して、メディア、所属プログラム(群)、回答者の年齢構成・職業等の属性別に見ていく。

まず放送授業に関する項目をメディア別に見ると(図2-24)(3)「放送授業を十分に視聴した」という学生は、ラジオ科目よりテレビ科目の方が多くなっている。また放送授業の総合評価と言える(9)「教材としてよくできていると感じた」も、ラジオ科目に比べテレビ科目の方が、評価が高くなっている。

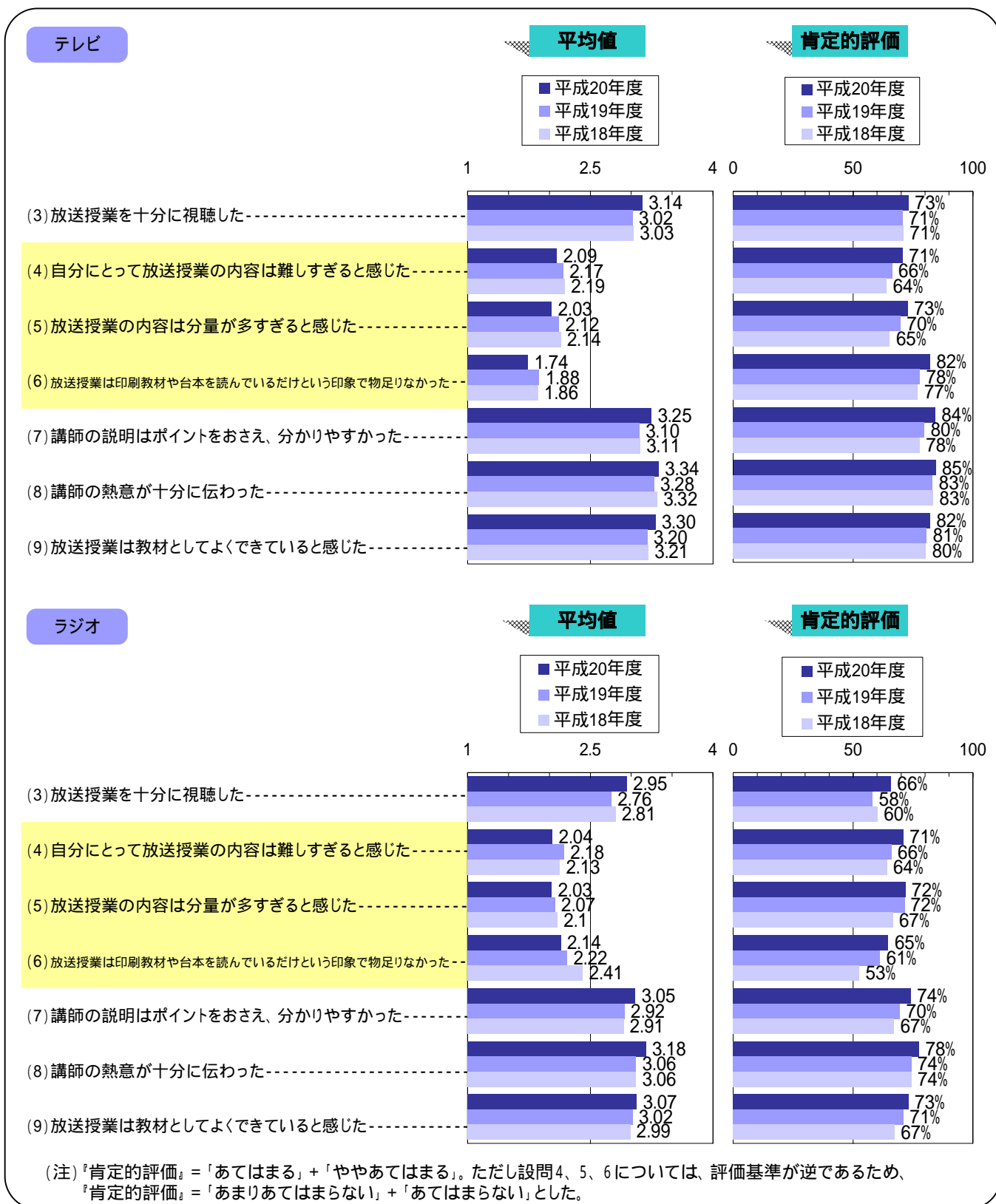
両メディアでは(4)「放送授業の内容は難しすぎと感じた」や(5)「放送授業の内容は分量が多すぎと感じた」という授業内容による差はほとんどないものの、(6)「放送授業は印刷教材や台本を読んでいるだけという印象で物足りなかった」、(7)「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」、(8)「講師の熱意が十分に伝わった」といった授業方法では、テレビ科目の方が評価が高くなっており、授業の視聴度合いや総合評価に影響を与えていると言える。ラジオ科目は、放送授業と教材との関係の適切さや授業の分かりやすさ、講師の熱意等、授業としての出来栄を上げることが求められる。

図2-24 【大学院】メディア別の「放送授業」評価



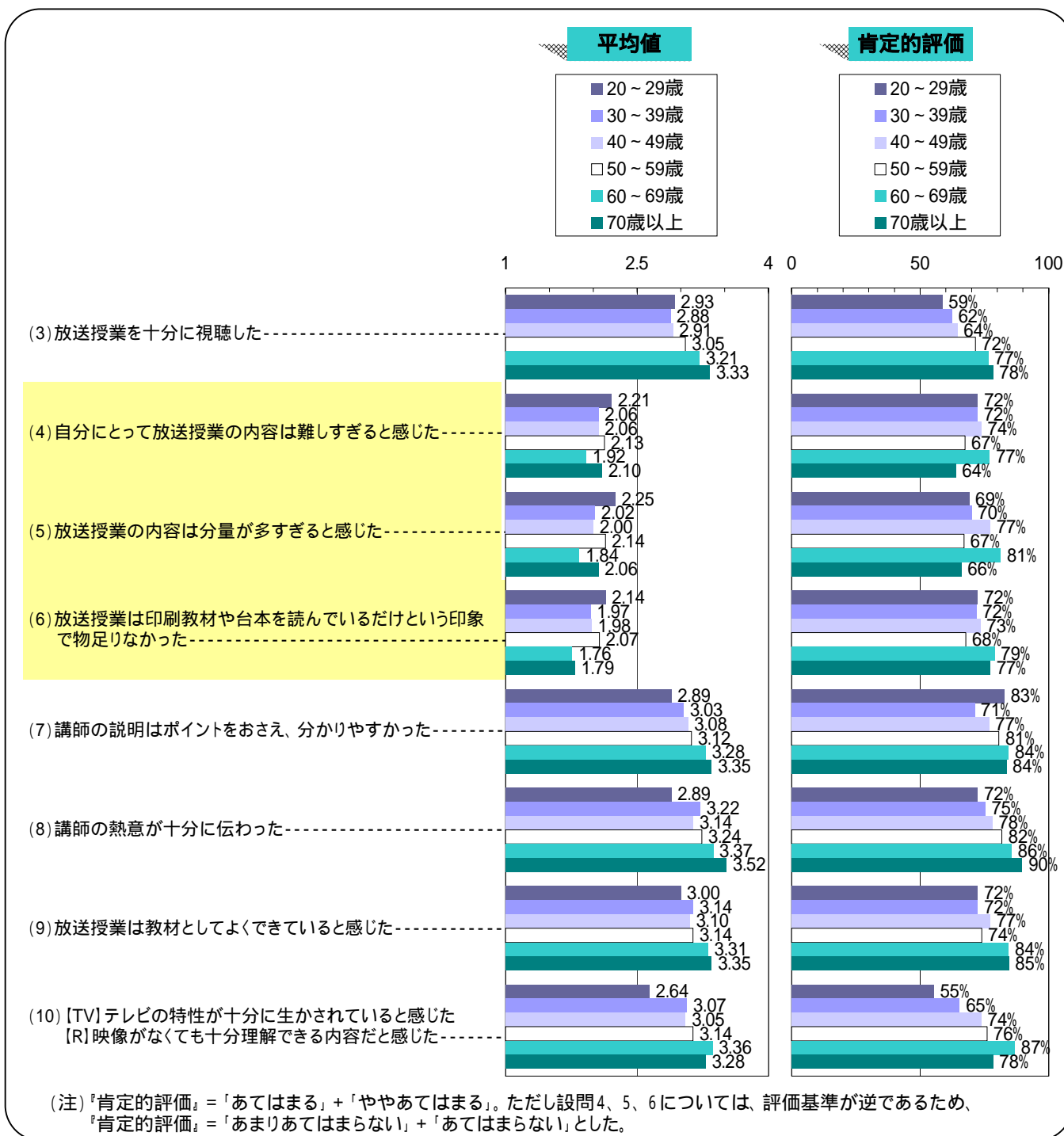
次に、メディア別に時系列比較を見ると（図2-25）、テレビ科目、ラジオ科目ともいずれの項目も年々評価が上がっている。特にラジオ科目の（6）「放送授業は印刷教材や台本を読んでいるだけという印象で物足りなかった」は、評価自体はテレビ科目に比べ低いものの、時系列では大きく評価が上がっており、改善の効果が顕著である。

図2-25 【大学院】メディア別の「放送授業」評価（時系列）



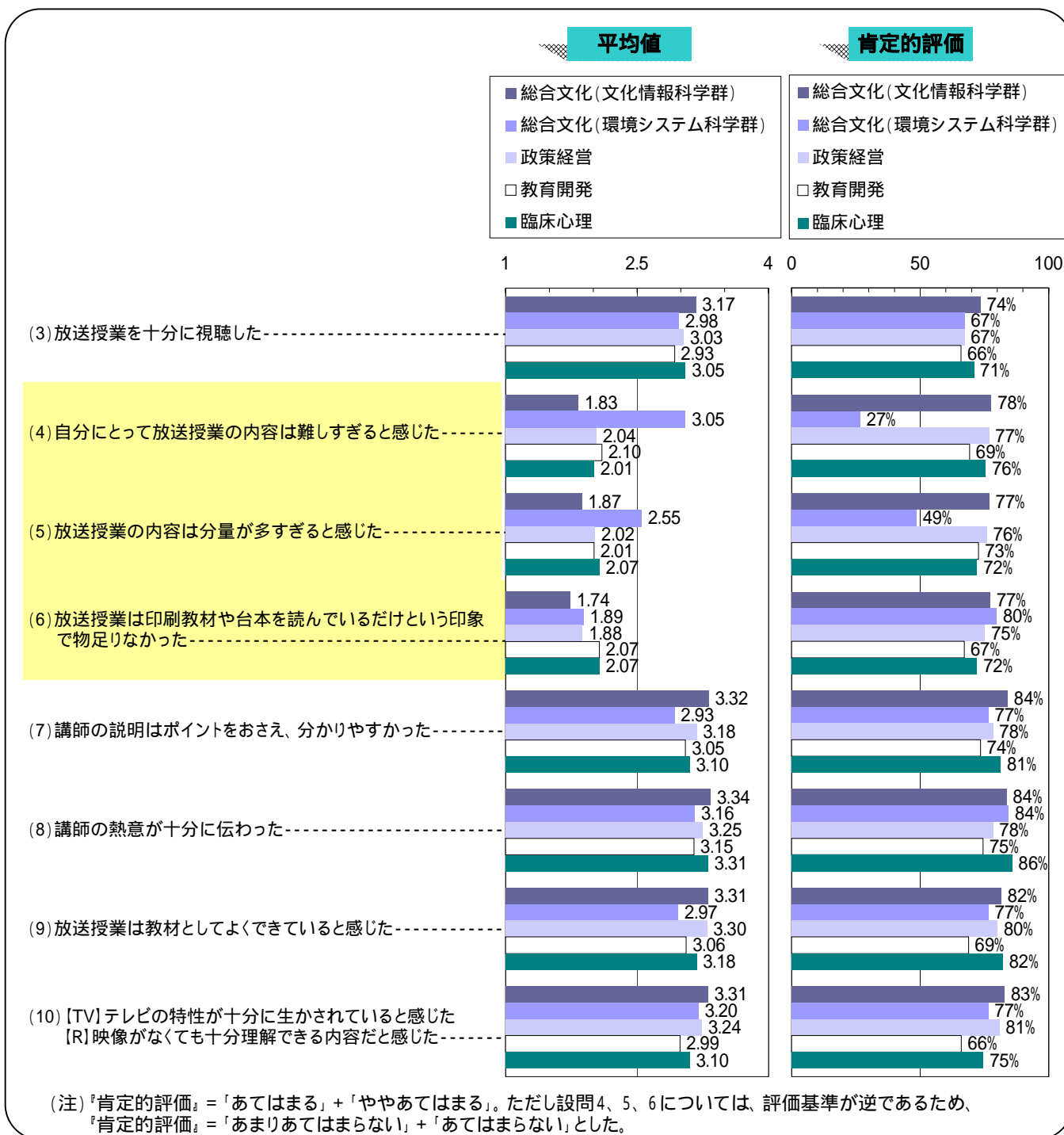
放送授業に関して、大学院生の年齢階層別に見ると(図2-26)(3)「放送授業を十分に視聴した」、総合評価としての(9)「教材としてよくできていると感じた」は年齢の高い層ほど評価値が高い。同様に、(7)「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」、(8)「講師の熱意が十分に伝わった」、(10)「テレビの特性が生かされている/映像がなくても十分理解できる」も年齢階層が高いほど評価値が高くなっている(20代は回答数が少なく誤差が大きいので注意)。一方、(4)「難しすぎると感じた」、(5)「分量が多すぎると感じた」、(6)「放送授業は印刷教材や台本を読んでいるだけという印象で物足りなかった」は年齢階層との相関はやや弱い。

図2-26 【大学院】年齢階層別の「放送授業」評価



放送授業に関して、科目の所属プログラム別にみると（図2 - 27）「総合文化（文化情報科学群）」、「政策経営」、「臨床心理」は、総合評価である（9）「教材としてよくできていると感じた」をはじめ、（7）講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」、「（8）講師の熱意が十分に伝わった」等の講師の授業方法や（10）「【TV】テレビの特性が十分に活かされていると感じた / 【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」などで比較的评价が高くなっている。逆に「教育開発」は総合評価、授業方法とも評価が低くなっている。なお、今回の大学院の調査対象は、プログラムごとの科目数が1～4科目と少ないため、個々の科目の影響が大きくており、プログラムの特徴というより

図2 - 27 【大学院】所属プログラム（群）別の「放送授業」評価



も科目の特徴が表れている可能性が高いので注意が必要である。特に「総合文化（環境システム科学群）」は1科目のみが対象であったため、これをもって「総合文化（環境システム科学群）」の特徴とすることはできないであろう。

さらに、大学院生の職業別に視聴の十分さ及び難易度・分量について見てみる（次頁図2 - 28）。なお、大学院の場合、職業によっては回答者数の少ない職種があり、誤差が大きく現れる可能性があるため、参考にとどめておく必要がある。特に農業等及び他大学等の学生は回答数が10人以下と少ないため、ここには掲載しなかった。

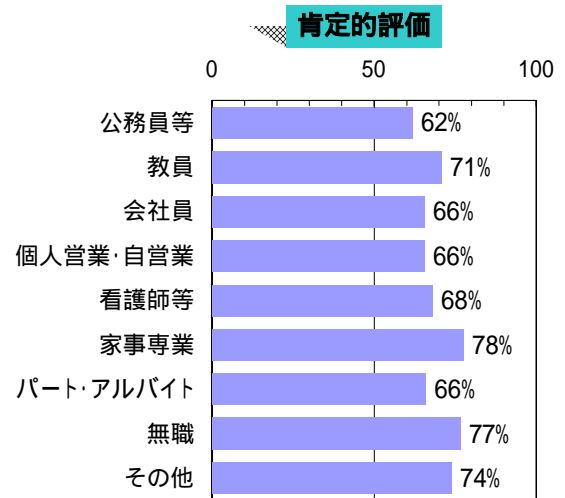
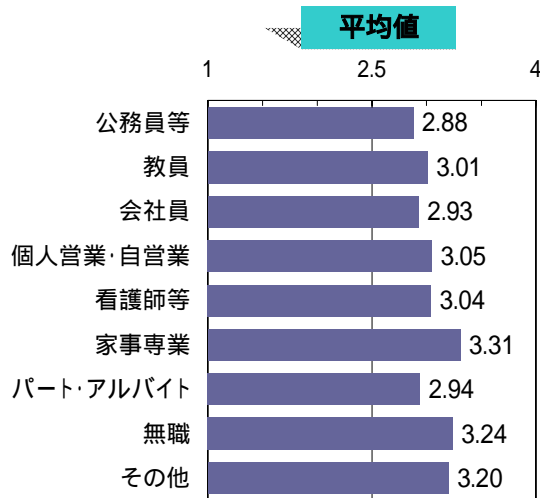
（3）「放送授業を十分に視聴した」という学生は、家事専業、無職等、比較的時間の融通がききやすいと思われる層で多くなっている。逆に公務員等は、他の職種に比べ、十分に視聴した人がやや少なくなっている。

（4）「放送授業の内容は難しすぎると感じた」という学生は、あまり大きな差はないが、公務員等、教員、パート・アルバイトで若干多く、会社員、個人営業・自営業で他の職種に比べやや少なくなっている。

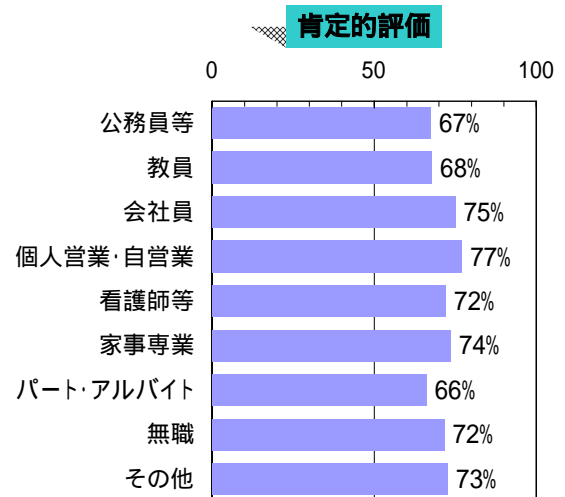
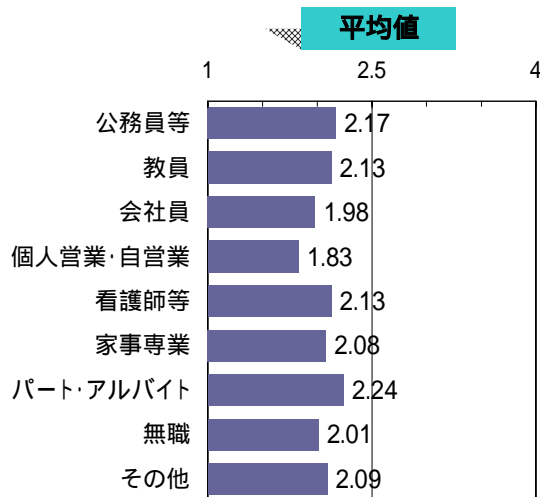
（5）「放送授業の内容は分量が多すぎると感じた」という学生も、職業別の差は少なくなっている。

図 2 - 2 8 【大学院】職業別の「放送授業」評価

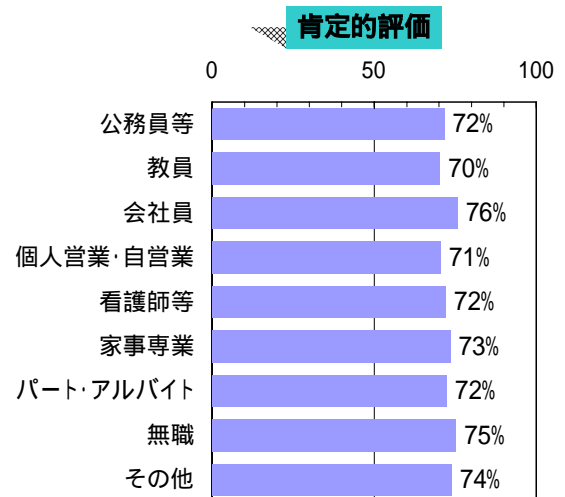
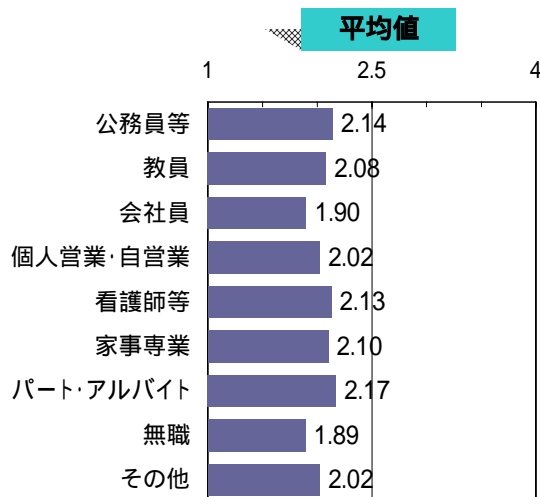
(3) 放送授業を十分に視聴した



(4) 自分にとって放送授業の内容は難しすぎと感じた



(5) 放送授業の内容は分量が多すぎと感じた



(注) 『肯定的評価』=「あてはまる」+「ややあてはまる」。ただし設問4、5については、評価基準が逆であるため、『肯定的評価』=「あまりあてはまらない」+「あてはまらない」とした。

(2) 印刷教材に関する評価結果

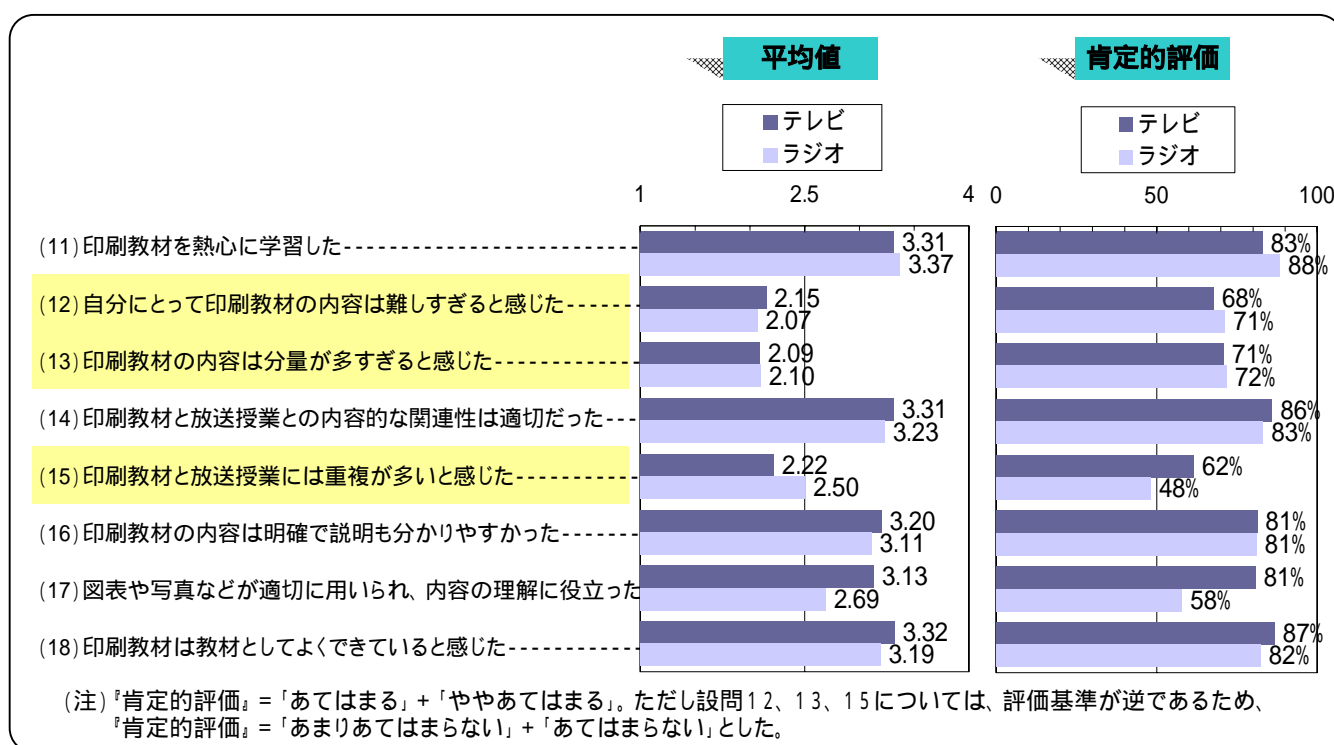
ここからは、大学院の印刷教材に関する評価結果を見ていく。

まず、メディア別に見ると(図2-29)(11)「印刷教材を熱心に学習した」という学生は、若干ラジオ科目の方が多くなっている。しかし総合評価である(18)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」は、テレビ科目の方が評価が高くなっている。

(15)「印刷教材と放送授業には重複が多いと感じた」、(17)「図表や写真等が適切に用いられ、内容の理解に役立った」は、テレビ科目に比べ、ラジオ科目の評価値がかなり低くなっている。

一方、(12)「印刷教材の内容は難しすぎと感じた」、(13)「印刷教材の内容は分量が多すぎと感じた」、(16)「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」といった点では、メディア間の差はあまり大きくない。

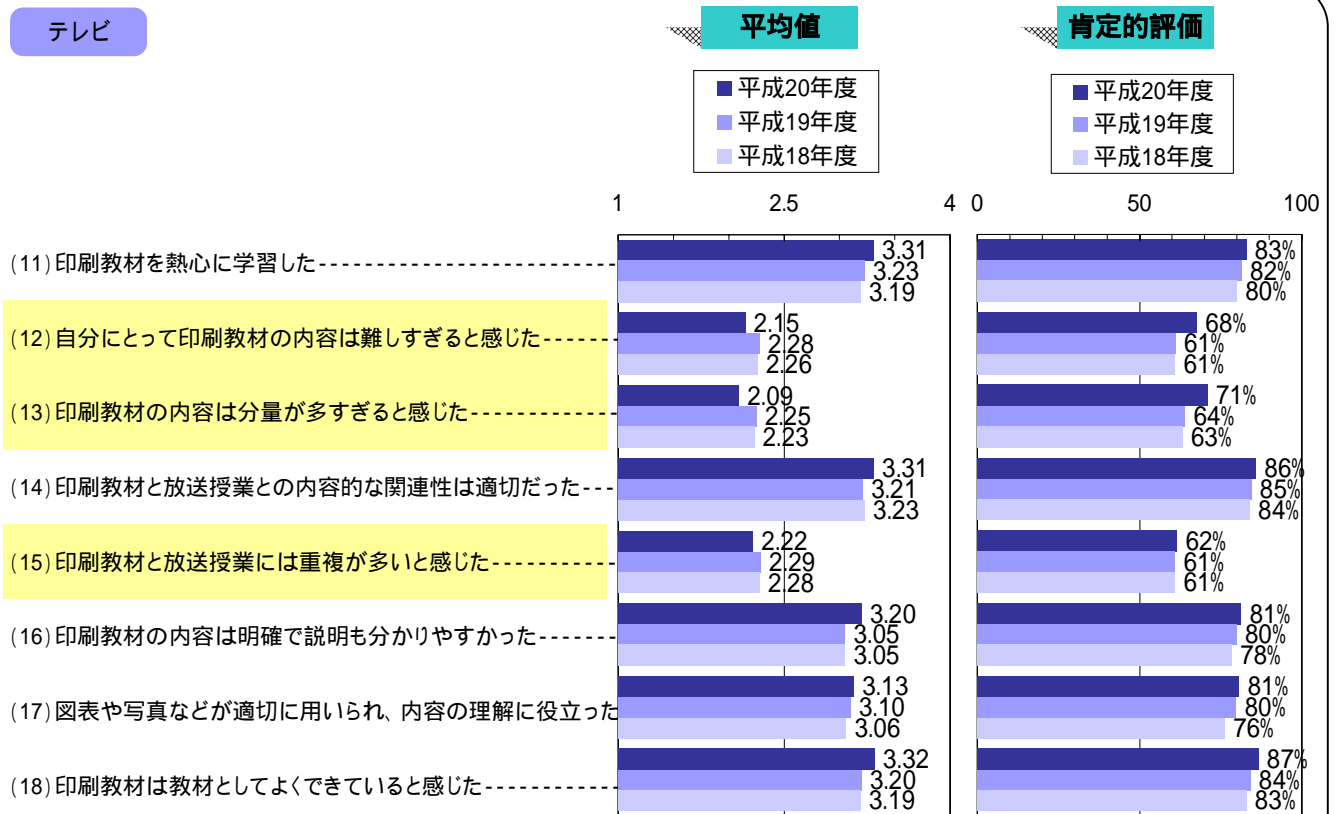
図2-29 【大学院】メディア別の「印刷教材」評価



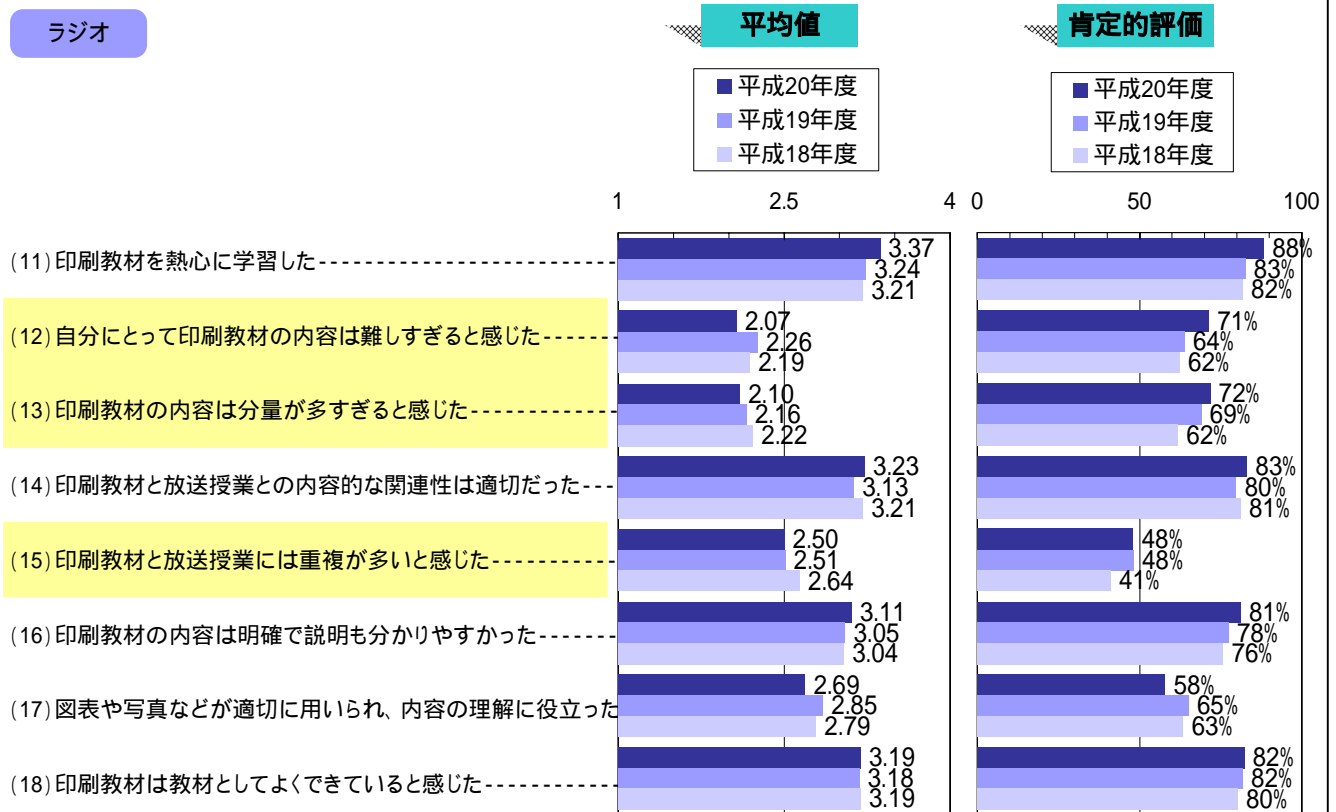
さらに、メディア別の印刷教材の評価を時系列比較すると(次頁図2-30)、テレビ科目では僅かずつではあるが、いずれの評価項目も年々評価が上昇している。ラジオ科目も総合評価である(18)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」は僅かずつ評価が上がっているが、(17)「図表や写真等が適切に用いられ、内容の理解に役立った」のように前回より評価が下がっている項目ある。ただ(12)「印刷教材の内容は難しすぎと感じた」、(13)「印刷教材の内容は分量が多すぎと感じた」といった難易度や分量はやや大きく評価が上がっている。

図2 - 30 【大学院】メディア別の「印刷教材」評価（時系列）

テレビ



ラジオ

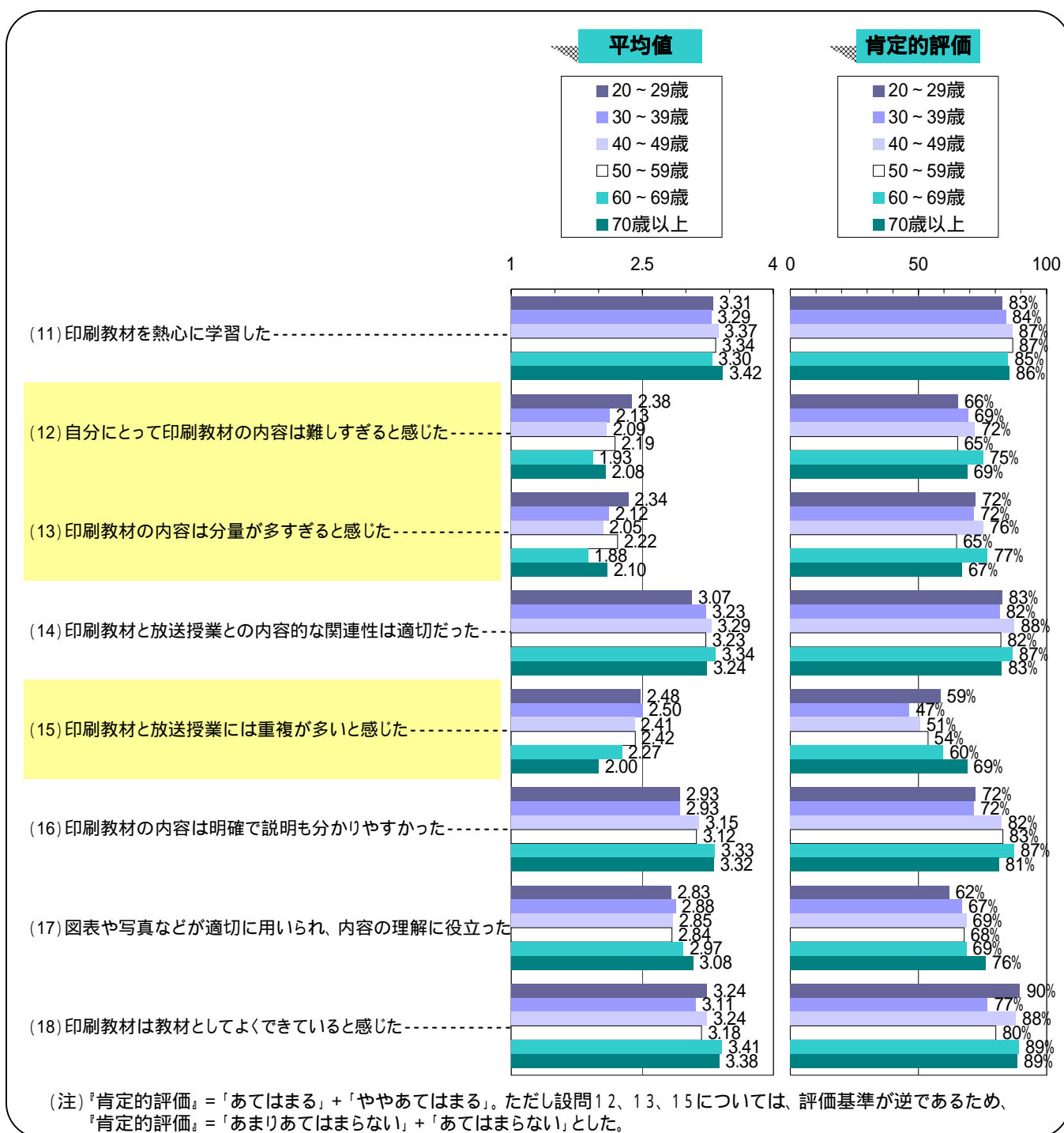


(注) 『肯定的評価』 = 「あてはまる」 + 「ややあてはまる」。ただし設問12、13、15については、評価基準が逆であるため、
『肯定的評価』 = 「あまりあてはまらない」 + 「あてはまらない」とした。

印刷教材の評価を年齢階層別に見ると(図2-31)まず(11)「印刷教材を熱心に学習した」という学生は、年齢階層の差は少なくなっているが、総合評価である(18)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」は、高齢者層ほど評価が高くなる傾向が見られる(ただし20代は回答数がやや少ないので、参考にとどめるべきであろう)。

また(15)「印刷教材と放送授業には重複が多いと感じた」、(16)「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」は、特に年齢階層による差が大きく表われており、高齢者層ほど評価が高くなっている。

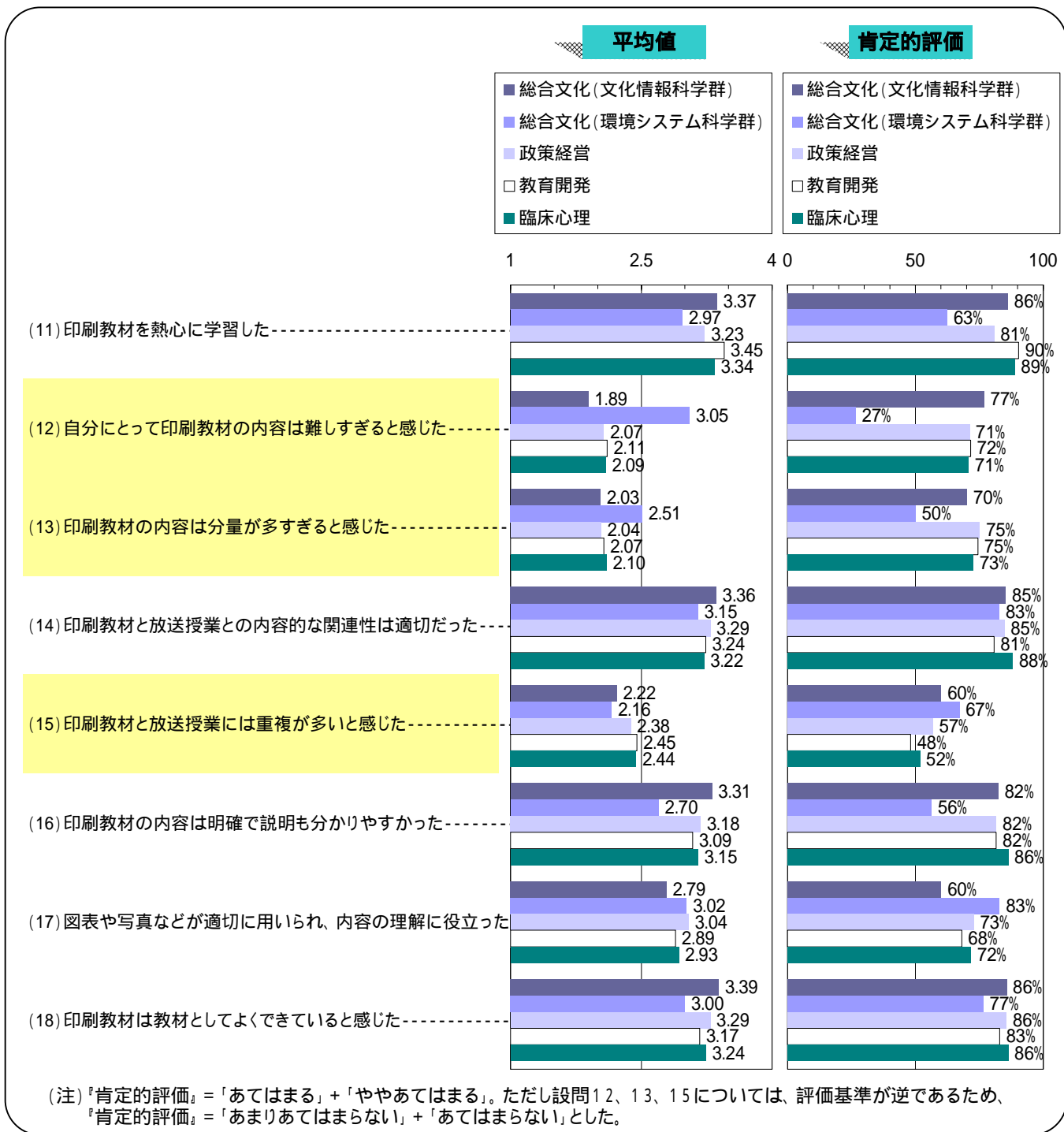
図2-31 【大学院】年齢階層別の「印刷教材」評価



印刷教材を科目の所属プログラム（群）別に見ると（図2 - 3 2）、対象科目が1科目である「総合文化（環境システム科学群）」を除いて、総合評価である（18）「教材としてよくできていると感じた」の差はあまり見られない。

また「政策経営」は、（11）「印刷教材を熱心に学習した」という学生がやや少なく、「総合文化（文化情報科学群）」は、（17）「図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った」の評価が低くなっているが、それ以外の項目では大きな差は見られない。

図2 - 3 2 【大学院】所属プログラム（群）別の「印刷教材」評価



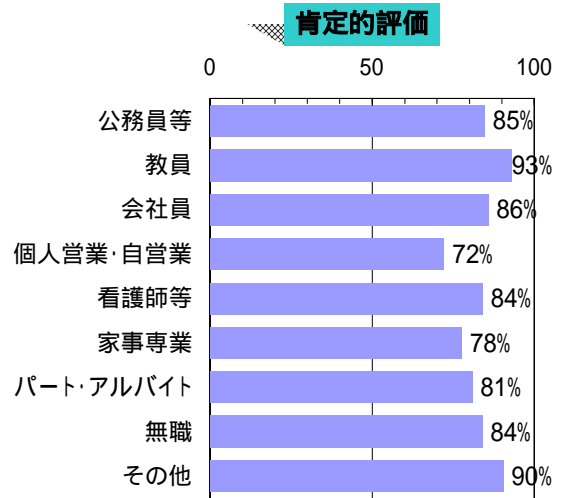
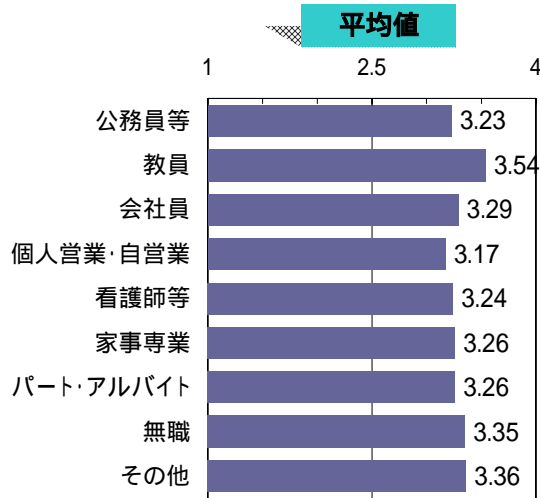
印刷教材の職業別学習熱心度及び難易度・分量について見てみる（次頁図 2 - 3 3）。まず、(11)「印刷教材を熱心に学習した」という学生は、教員で多く、個人営業・自営業で少なくなっている。

また、(12)「印刷教材の内容は難しすぎると感じた」は、看護師等、個人営業・自営業で他の職種より多くなっている。

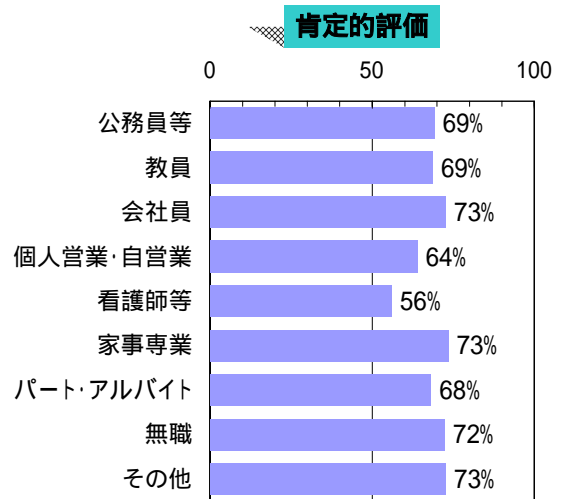
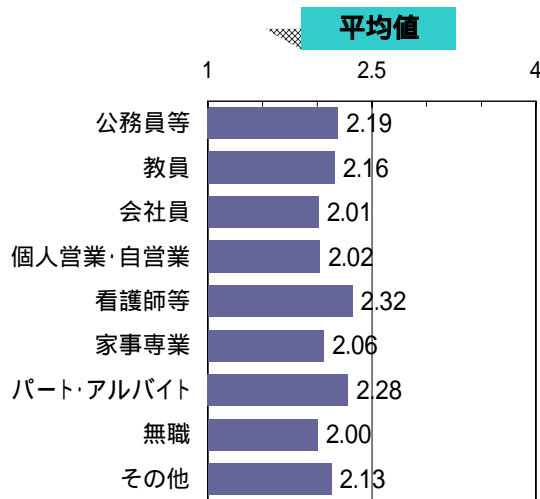
さらに(13)「印刷教材の内容は分量が多すぎると感じた」という学生は、家事専業、個人営業・自営業で他の職種よりやや多い。

図 2 - 3 3 【大学院】職業別の「印刷教材」評価

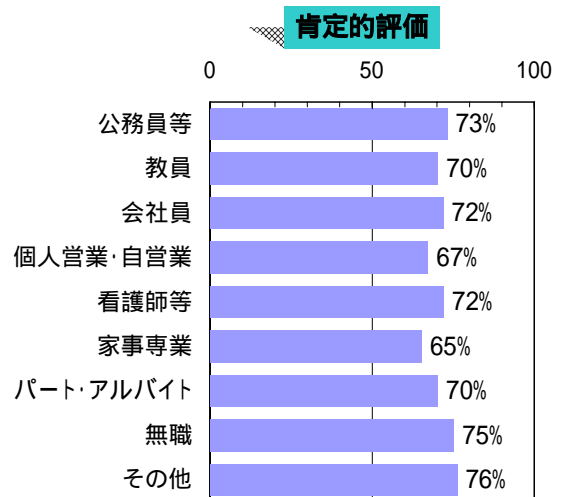
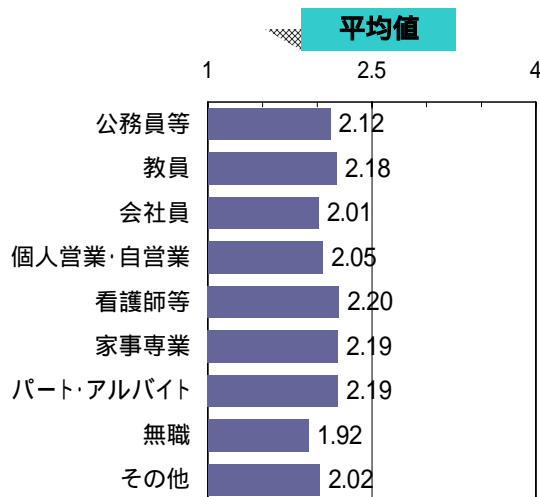
(11) 印刷教材を熱心に学習した



(12) 自分にとって印刷教材の内容は難しすぎと感じた



(13) 印刷教材の内容は分量が多すぎと感じた



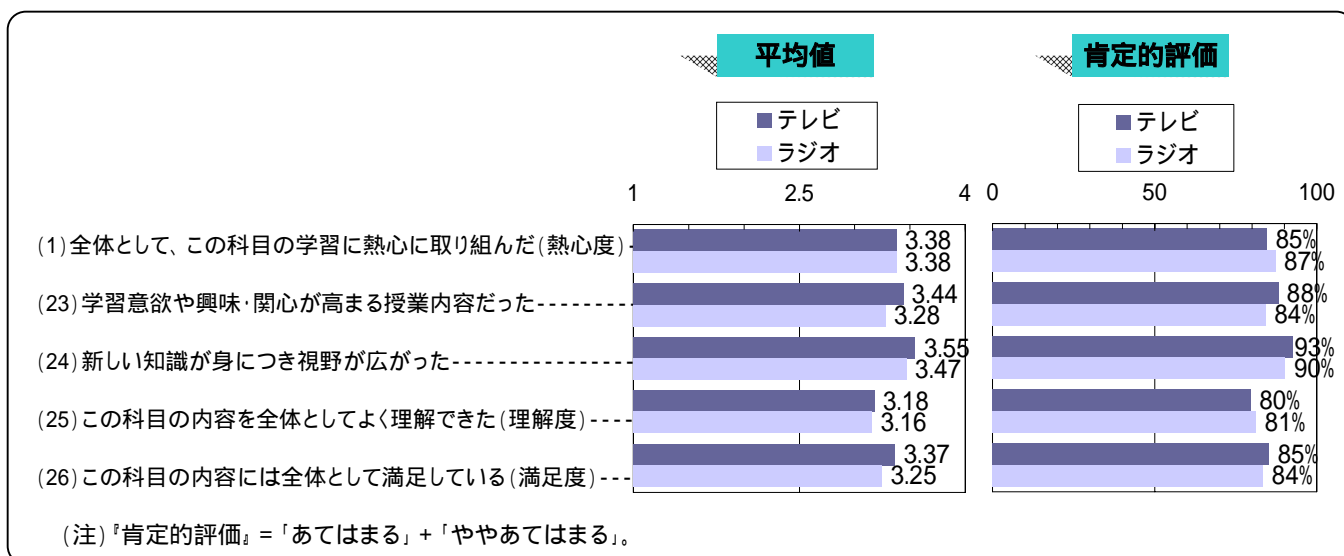
(注) 『肯定的評価』=「あてはまる」+「ややあてはまる」。ただし設問12、13、については、評価基準が逆であるため、『肯定的評価』=「あまりあてはまらない」+「あてはまらない」とした。

(3) 科目全体の評価(取り組み姿勢・理解度・満足度等)

ここからは、科目全体の評価である学習への取り組み姿勢及び理解度・満足度を、科目特性や属性別に見ていく。

まずメディア別に見ると(図2-34)、(1)「全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)」や(25)「この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)」は、テレビ科目とラジオ科目であまり大きな差はないが、(23)「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」、(24)「新しい知識が身につく視野が広がった」及び(26)「この科目の内容には全体として満足している(満足度)」は、テレビ科目の方がラジオ科目より評価がやや高くなっている。ラジオ科目については、講義方法や教材の出来栄だけでなく、いかに魅力ある授業を提供できるかについても工夫が必要と言える。

図2-34 【大学院】メディア別の全体評価



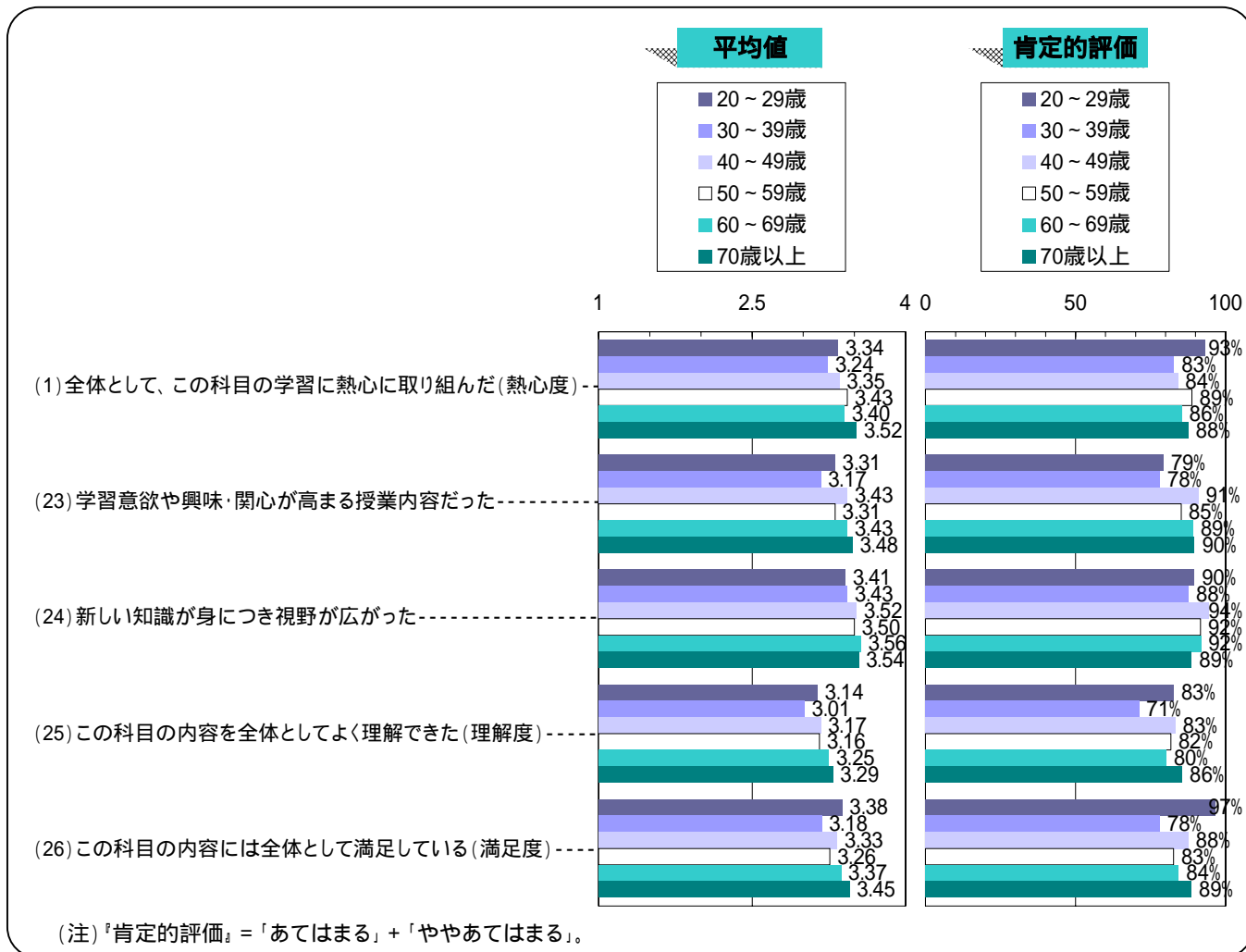
メディア別に時系列で見ると(図2-35)、テレビ科目、ラジオ科目とも評価平均値は前回よりアップしている。また肯定的評価もほとんどの項目で増加しているが、特にもともとテレビ科目より評価が低かったラジオ科目で大きく増えており、改善の効果が大きい。

図2-35 【大学院】メディア別の全体評価(時系列)



全体評価を大学院生の年齢階層別に見ていくと（図2-36）、回答者数の少ない20代を除いて、いずれの評価項目も高齢者層ほど評価が高くなる傾向が見られる。

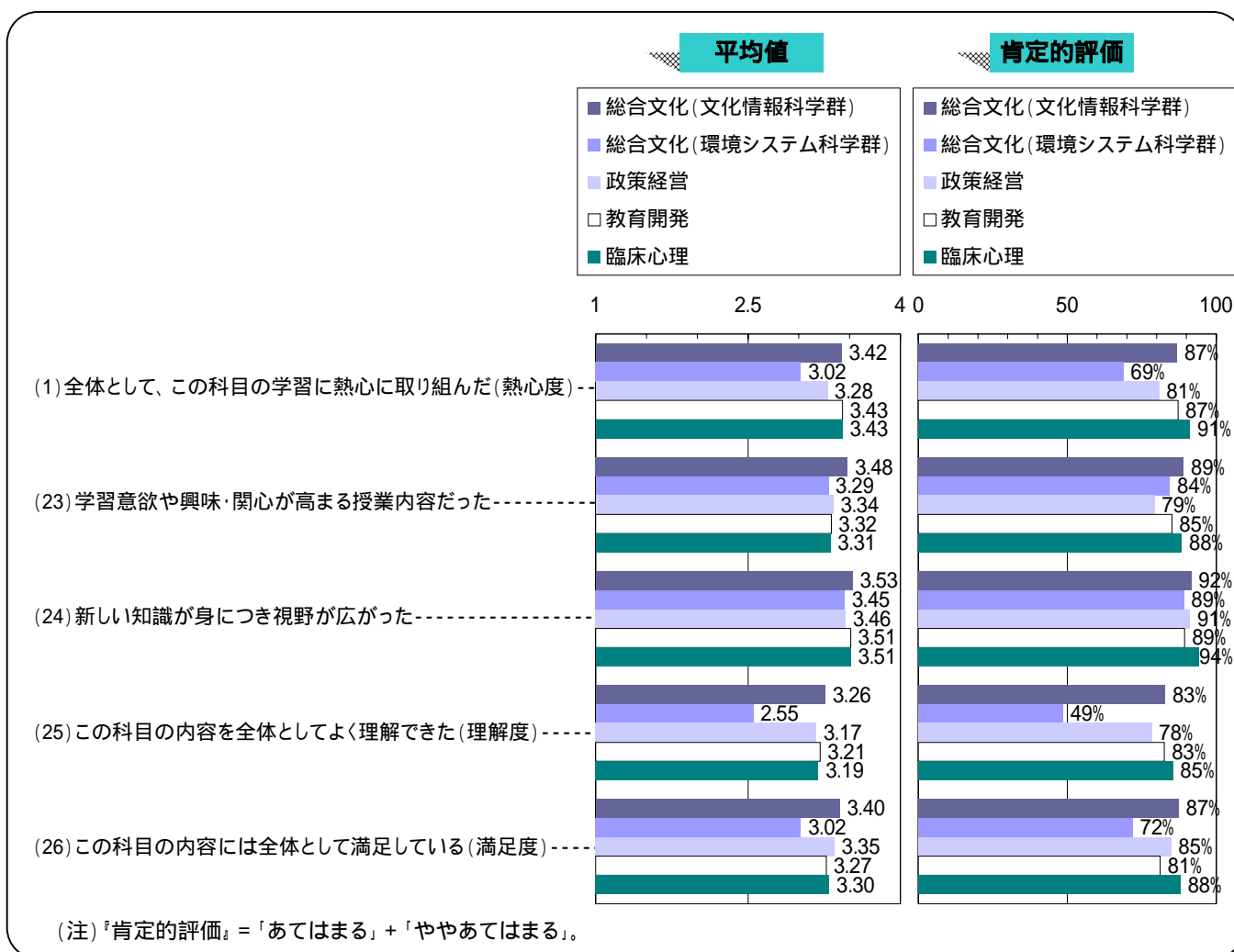
図2-36 【大学院】年齢階層別の全体評価



科目の所属プログラム（群）別に全体評価を見ると（図2-37）、「総合文化（文化情報科学群）」と「臨床心理」は、いずれの項目でも肯定的評価が他のプログラムよりやや高くなっている。

また「政策経営」は、(1)「全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)」、(23)「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」という学生が他のプログラムよりやや少ない。(注意:「総合文化(環境システム科学群)」は対象科目が1科目であるため、プログラムの評価としては適切ではない)

図2-37 【大学院】所属プログラム（群）別の全体評価

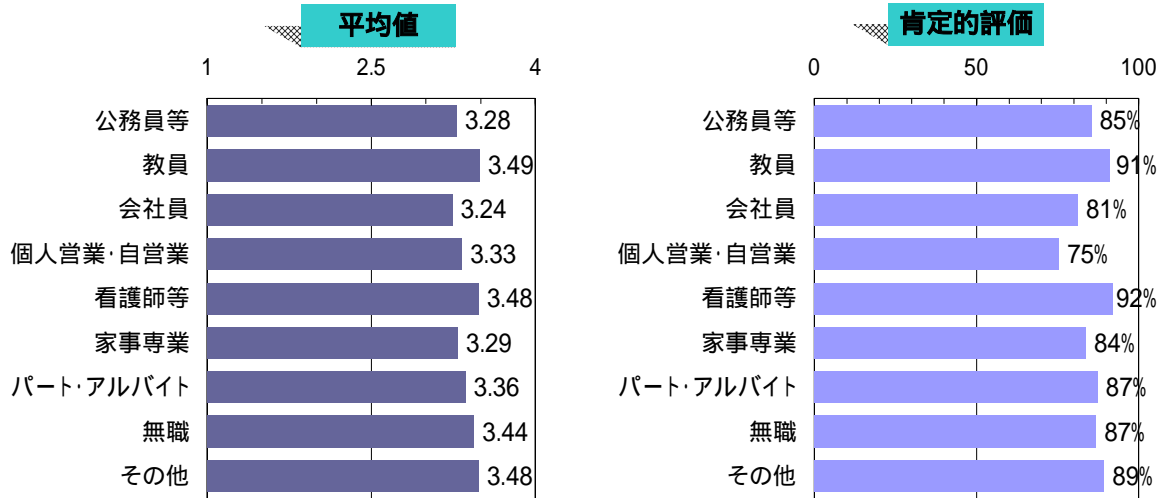


職業別に全体的な学習熱心度及び理解度・満足度について見てみる（次頁の図2-38）。(1)「全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)」という学生は、看護師等、教員で多く、個人営業・自営業で他の職種より少なくなっている。

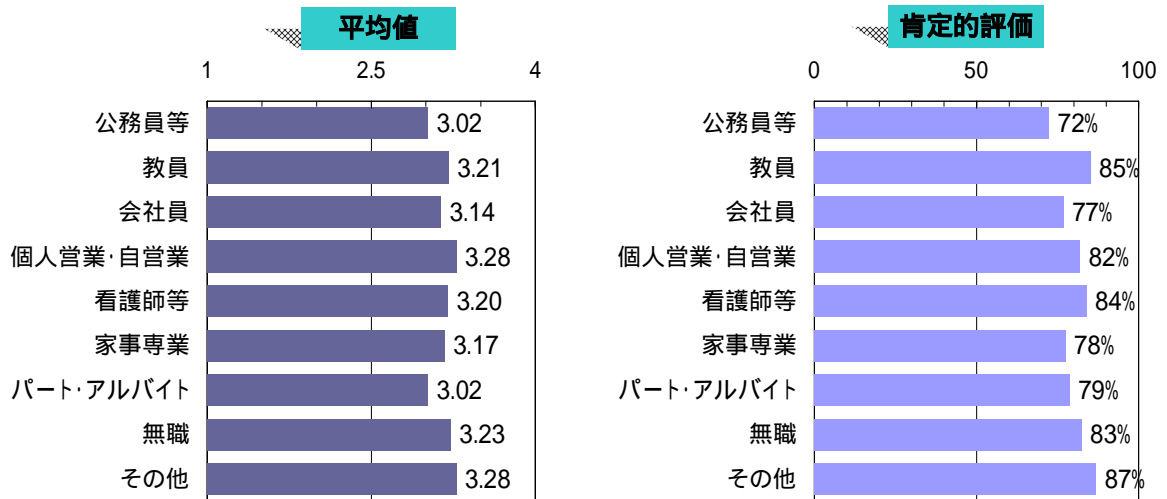
また(25)「この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)」という学生は、教員、看護師等、無職等でやや多く、公務員等で少ない。(26)「この科目の内容には全体として満足している(満足度)」という学生は、看護師等、パート・アルバイトで多くなっている。

図 2 - 3 8 【大学院】職業別の全体評価

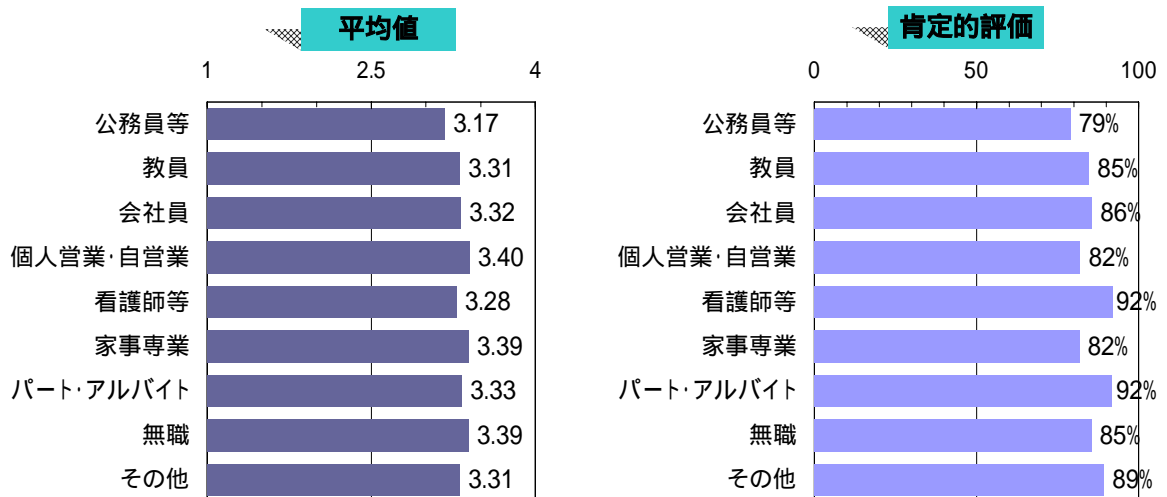
(1)全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)



(25)この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)



(26)この科目の内容には全体として満足している(満足度)



(注)『肯定的評価』=「あてはまる」+「ややあてはまる」。

(4) 参考

ここでは、学部の場合と同様に、総合評価と各個別評価との関係を、相関係数を用いてみていく（相関係数の意味と見方については、45頁を参照されたい）。

表2 - 5は、放送授業の各評価項目と(3)「放送授業を十分に視聴した(視聴度)」及び(9)「放送授業は教材としてよくできている(放送授業の総合評価)」との相関係数である。これを見ると、(3)「放送授業を十分に視聴した(視聴度)」と(9)「放送授業は教材としてよくできている(放送授業の総合評価)」との相関係数は0.313(全体)とやや弱い相関になっている。

また(3)「放送授業を十分に視聴した(視聴度)」は、(7)「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」、(8)「講師の熱意が十分に伝わった」と相関が見られる。一方、(9)「放送授業は教材としてよくできている(放送授業の総合評価)」は、(7)「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」、(8)「講師の熱意が十分に伝わった」、(10)「【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた/【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」とやや強い相関が見られる。放送授業の総合的な評価を高めるためには、ポイントをおさえた分かりやすい説明や講師の熱意、さらにテレビ科目では映像を生かした放送、ラジオ科目では映像がなくても理解できる内容であることが必要と言える。

表2 - 5 【大学院】放送授業と各項目との単相関係数

	【全体】		テレビ		ラジオ	
	(3)十分に視聴した	(9)教材としてよくできている	(3)十分に視聴した	(9)教材としてよくできている	(3)十分に視聴した	(9)教材としてよくできている
(3)放送授業を十分に視聴した(視聴度)	1.000	0.313	1.000	0.296	1.000	0.311
(4)自分にとって放送授業の内容は難しすぎと感じた	0.023	0.133	0.007	0.164	0.044	0.118
(5)放送授業の内容は分量が多すぎと感じた	0.059	0.161	0.023	0.199	0.092	0.131
(6)放送授業は印刷教材や台本を読んでいるだけという印象で物足りなかった	0.120	0.357	0.131	0.395	0.080	0.296
(7)講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった	0.400	0.650	0.397	0.616	0.389	0.666
(8)講師の熱意が十分に伝わった	0.403	0.631	0.415	0.597	0.383	0.649
(9)放送授業は教材としてよくできていると感じた(放送授業の総合評価)	0.313	1.000	0.296	1.000	0.311	1.000
(10)【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた 【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた	0.291	0.518	0.357	0.583	0.218	0.448

(注)設問4、5、6については、他の項目と評価基準が逆であるため、回答を4 1、3 2、2 3、1 4と逆転した上で、相関係数を算出している。

次に、印刷教材の各評価項目と(11)「印刷教材を熱心に学習した(熱心度)」及び(18)「印刷教材は教材としてよくできている(印刷教材の総合評価)」との相関を見てみると

(表2 - 6) (11)「印刷教材を熱心に学習した(熱心度)」と(18)「印刷教材は教材としてよくできている(印刷教材の総合評価)」の相関係数が0.233(全体)と、あまり相関が見られない。(11)「印刷教材を熱心に学習した(熱心度)」はその他の項目とも相関が低く、印刷教材の評価と熱心に学習したかどうかは関連が薄いと言える。

また(18)「印刷教材は教材としてよくできている(印刷教材の総合評価)」と相関の強い項目は、(16)「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」と(17)「図表や写真等が適切に用いられ、内容の理解に役立った」、等であり、(18)「印刷教材は教材としてよくできている(印刷教材の総合評価)」を高めるためには、内容の分かりやすさが最も重要と言えよう。

表2 - 6 【大学院】印刷教材と各項目との単相関係数

	【全体】		テレビ		ラジオ	
	(11)熱心に学習した	(18)教材としてよくできている	(11)熱心に学習した	(18)教材としてよくできている	(11)熱心に学習した	(18)教材としてよくできている
(11)印刷教材を熱心に学習した(熱心度)	1.000	0.233	1.000	0.264	1.000	0.214
(12)自分にとって印刷教材の内容は難しすぎると感じた	0.155	0.269	0.159	0.340	0.149	0.213
(13)印刷教材の内容は分量が多すぎると感じた	0.110	0.276	0.072	0.355	0.147	0.208
(14)印刷教材と放送授業との内容的な関連性は適切だった	0.230	0.389	0.239	0.402	0.228	0.372
(15)印刷教材と放送授業には重複が多いと感じた	0.009	0.168	0.026	0.199	0.005	0.120
(16)印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった	0.252	0.710	0.305	0.686	0.208	0.728
(17)図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った	0.150	0.574	0.206	0.644	0.137	0.521
(18)印刷教材は教材としてよくできていると感じた(印刷教材の総合評価)	0.233	1.000	0.264	1.000	0.214	1.000

(注)設問12、13、15については、他の項目と評価基準が逆であるため、回答を4 1、3 2、2 3、1 4と逆転した上で、相関係数を算出している。

さらに全評価項目と(1)「全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)」、(25)「この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)」、(26)「この科目の内容には全体として満足している(満足度)」の相関を見る(次頁表2 - 7)。

まず(1)「全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)」は、(3)「放送授業を十分に視聴した(視聴度)」、(11)「印刷教材を熱心に学習した(熱心度)」等の個別の熱心度や(23)「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」、(24)「新しい知識が身につく視野が広がった」、(25)「この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)」、(26)「この科目の内容には全体として満足している(満足度)」との間に相関が見られる。

表 2 - 7 【大学院】全体評価と各項目との単相関係数

		【全体】			テレビ			ラジオ			
		(1) 熱心度	(25) 理解度	(26) 満足度	(1) 熱心度	(25) 理解度	(26) 満足度	(1) 熱心度	(25) 理解度	(26) 満足度	
	(1)全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)	1.000	0.524	0.419	1.000	0.577	0.445	1.000	0.468	0.402	
	(2)授業科目案内はこの科目の内容を知る上で役に立った	0.345	0.400	0.430	0.380	0.419	0.483	0.313	0.382	0.388	
放送授業	(3)放送授業を十分に視聴した(視聴度)	0.566	0.415	0.286	0.600	0.424	0.324	0.541	0.410	0.245	
	(4)自分にとって放送授業の内容は難しすぎと感じた	0.154	0.367	0.257	0.144	0.376	0.268	0.164	0.357	0.253	
	(5)放送授業の内容は分量が多すぎと感じた	0.103	0.313	0.283	0.115	0.328	0.308	0.092	0.299	0.262	
	(6)放送授業は印刷教材や台本を読んでいるだけという印象で物足りなかった	0.085	0.183	0.341	0.060	0.191	0.345	0.114	0.188	0.326	
	(7)講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった	0.301	0.463	0.529	0.326	0.484	0.567	0.284	0.455	0.491	
	(8)講師の熱意が十分に伝わった	0.306	0.380	0.431	0.330	0.387	0.471	0.288	0.380	0.391	
	(9)放送授業は教材としてよくできていると感じた(放送授業の総合評価)	0.276	0.418	0.549	0.259	0.442	0.612	0.298	0.406	0.492	
	(10)【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた 【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた	0.180	0.336	0.401	0.238	0.336	0.413	0.140	0.361	0.383	
	印刷教材	(11)印刷教材を熱心に学習した(熱心度)	0.673	0.479	0.360	0.673	0.522	0.400	0.673	0.435	0.336
		(12)自分にとって印刷教材の内容は難しすぎと感じた	0.198	0.421	0.300	0.232	0.458	0.329	0.163	0.384	0.282
(13)印刷教材の内容は分量が多すぎと感じた		0.133	0.341	0.288	0.160	0.400	0.309	0.107	0.283	0.271	
(14)印刷教材と放送授業との内容的な関連性は適切だった		0.245	0.326	0.381	0.239	0.333	0.401	0.251	0.321	0.360	
(15)印刷教材と放送授業には重複が多いと感じた		0.075	0.088	0.204	0.096	0.099	0.228	0.058	0.082	0.168	
(16)印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった		0.285	0.535	0.580	0.353	0.572	0.590	0.221	0.502	0.568	
(17)図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った		0.227	0.323	0.420	0.277	0.374	0.497	0.204	0.304	0.357	
(18)印刷教材は教材としてよくできていると感じた(印刷教材の総合評価)		0.269	0.476	0.628	0.315	0.505	0.673	0.229	0.454	0.586	
通信指導・試験	(19)通信指導のコメントは納得のいくものだった	0.172	0.357	0.417	0.252	0.370	0.467	0.094	0.345	0.382	
	(20)通信指導は学習内容の理解に役立った	0.189	0.389	0.469	0.263	0.402	0.479	0.121	0.375	0.463	
	(21)単位認定試験にはほとんど印刷教材の学習だけで臨んだ	0.125	0.060	0.018	0.116	0.075	0.059	0.132	0.043	-0.023	
	(22)単位認定試験の問題は科目内容の理解度ををはかるのにふさわしい内容だった	0.216	0.399	0.523	0.206	0.384	0.515	0.225	0.412	0.532	
全体評価	(23)学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった	0.439	0.583	0.718	0.475	0.549	0.708	0.415	0.621	0.721	
	(24)新しい知識が身につく視野が広がった	0.420	0.577	0.673	0.454	0.556	0.641	0.392	0.599	0.695	
	(25)この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)	0.524	1.000	0.704	0.577	1.000	0.688	0.468	1.000	0.724	
	(26)この科目の内容には全体として満足している(満足度)	0.419	0.704	1.000	0.445	0.688	1.000	0.402	0.724	1.000	

(注)設問4、5、6、12、13、15、21については、他の項目と評価基準が逆であるため、回答を4 1、3 2、2 3、1 4と逆転した上で、相関係数を算出している。

(25)「この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)」は、(26)「この科目の内容には全体として満足している(満足度)」、(23)「学習意欲や興味・関心が高まる

授業内容だった」(24)「新しい知識が身につき視野が広がった」との間に強い相関が見られるほか、(3)「放送授業を十分に視聴した(視聴度)」(7)「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」(9)「放送授業は教材としてよくできている(放送授業の総合評価)」(11)「印刷教材を熱心に学習した(熱心度)」(12)「印刷教材の内容は難しすぎると感じた」(16)「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」(18)「印刷教材は教材としてよくできている(印刷教材の総合評価)」等との相関が見られる。

また、(26)「この科目の内容には全体として満足している(満足度)」との相関が強い項目は、(7)「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」(9)「放送授業は教材としてよくできている(放送授業の総合評価)」(16)「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」(18)「印刷教材は教材としてよくできている(印刷教材の総合評価)」(23)「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」(24)「新しい知識が身につき視野が広がった」(25)「この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)」等となっており、科目の難易度や分量よりも、説明の分かりやすさや授業・教材の出来栄え、授業内容への興味・関心や知識の習得との関連が強くなっている。